

# 委託事業実施内容報告書

## 平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 公益財団法人札幌国際プラザ

#### 1. 事業名称

多文化共生コミュニティ形成のための日本語教育事業

#### 2. 事業の目的

札幌市の外国人住民は市内に点在して居住しており、日本語が理解できない場合は地域で孤立することもある。子育てや災害時など、住民同士が言葉の壁を越えて助けあう多文化共生コミュニティをつくるためには、外国人だけでなく日本人に対しても日本語教育の重要性について理解を広げる必要がある。また、目的達成のために幅広い担い手の連携を目指す。

#### 3. 事業内容の概要

- ・日本語教育関係者のための連絡会議の開催（①関係機関等の連携・協力を推進する検討体制の整備）
- ・災害・子育て・日本文化をテーマにした体験型行事（②多様な機関等との連携・協力に基づく日本語学習機会の拡充）
- ・外国人のための日本語教育に関するシンポジウムの開催（③取組の成果の発信）

※ イメージ図別添

#### 4. 運営委員会の開催について

##### 【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年8月29日 (水) 16:00～17:30	1.5時間	札幌国際プラザ会議室	阿部 仁美* 神谷 順子* 米森 宏子 大道 弘孝 後藤 道 他、事務局5名	・年間事業計画の検討	・文化庁委託事業「生活者としての外国人のための日本語教育事業」の内容確認 ・日本語支援の現状と課題、各委員の取組についての意見交換 ・取組1連絡会議の設置について
2	平成24年10月15日 (月) 13:00～15:00	2時間	札幌国際プラザ会議室	阿部 仁美* 神谷 順子* 大道 弘孝 山田 潤一(米森委員代理) 野山 広* 他、事務局4名、傍聴1名	・多文化共生の担い手ワークショップ(10/21、12/16)内容検討 ・年度後半事業について	・ワークショップの具体的内容、進行について ・ワークショップの周知について ・事務局より年度前半に実施した事業の成果検証および後半に実施を予定している事業の内容について
3	平成25年2月6日 (水) 15:30～17:30	2時間	札幌国際プラザ会議室	阿部 仁美* 神谷 順子* 米森 宏子 大道 弘孝 後藤 道 他、事務局4名、傍聴1名	・多文化共生シンポジウム(2/24)内容検討 ・事業の振り返り、評価	・シンポジウムの具体的内容、進行について ・パネルディスカッションの構成および発言内容について ・シンポジウムの周知について ・各取組の振り返り、取りまとめに向けての確認

※その他、6月25日にはメールで全委員と審議し、委託事業についての内諾を得たほか、3月20日

まで随時、メール、電話などで連絡し、意見を交換した。



第 1 回運営委員会(8/29)



第 3 回運営委員会(2/6)

## 5. 取組についての報告

### ○取組1:日本語教育関係者のための連絡会議の開催

- (1) 体制整備に向けた取組の目標  
組織を越えた連携により情報共有が可能になり、学習者に対してよりきめ細かい支援ができるようになる。
- (2) 取組内容  
日本語教育関係者のための連絡会議(ワークショップおよび意見交換会)の開催
- (3) 対象者  
札幌市内・近郊で外国語母国語者への日本語指導に携わる日本語教師、ボランティア、加配教員等、および日本語支援に関心を持つ市民
- (4) 参加者の募集方法
  - ① 札幌市広報誌・当財団行事予定誌への掲載
  - ② 札幌市教育委員会を通じた市内小・中学校へのメール通知。
  - ③ 小・中学校、日本語学校、ボランティア団体、関係団体への書面による通知。
  - ④ 当財団ウェブサイトへの掲載。
- (5) 参加者の総数 78 人  
(出身・国籍別内訳 日本 73 人、中国 2 人、韓国 1 人、ロシア 1 人、不明 1 人)
- (6) 開催時間数(回数) 9 時間 15 分 (全 4 回)

## (7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年10月21日 (日) 13:00～15:45	2時間 45分	札幌国際プラ ザ交流サロン	42名	日本(39)、中国(1)、韓 国(1)、不明(1)	「多文化共生の担い手 ワークショップ第1回」	第1部 講演「多文化社会の構築に向けた日本語教 育の可能性について～共生のための連携・協働の あり方を考えながら～」 第2部 ワークショップ
2	平成24年12月16日 (日) 13:00～16:30	3時間 30分	札幌国際プラ ザ交流サロン	42名	日本(39)、ロシア(1)、 中国(1)、韓国(1)	「多文化共生の担い手 ワークショップ第2回」	第1部 講演「未来を拓く子どもの日本語支援 ～地 域で共有したいこと～」 第2部 外国人住民による事例発表 第3部 ワークショップ
3	平成25年2月13日 (水) 15:30～17:00	1時間 30分	札幌国際プラ ザ会議室	13名	日本(13)	日本語ボランティア意 見交換会@プラザ①	・団体ごとに異なる運営形態や悩みなどを共有する 情報交換。 ・学習者、支援者双方が学びやすい環境を作るため に、担い手同士の緩やかな連携、ネットワーク作りを 検討
4	平成25年2月16日 (土) 15:30～17:00	1時間 30分	札幌国際プラ ザ交流サロン	9名	日本(9)	日本語ボランティア意 見交換会@プラザ②	・団体ごとに異なる運営形態や悩みなどを共有する 情報交換。 ・学習者、支援者双方が学びやすい環境を作るため に、担い手同士の緩やかな連携、ネットワーク作りを 検討

## (8) 特徴的な活動風景

### ① 多文化共生の担い手ワークショップ ～日本語教育から考える①～(10/21)

札幌圏で外国人支援に関わる多様な担い手が、学びながら連携する機会として、外国籍住民と日本人住民がともに地域で生活する際には欠かすことができない「日本語教育」をキーワードに、第1回は講師に野山 広 氏(国立国語研究所)を迎えてワークショップを開催した。

日本語教育や外国人支援に関わるボランティア、大学教員、学生、自治体職員など 42 名が参加。

第1部は講師が日本の多言語・多文化化の状況について実例をあげながら説明し、第2部はグループごとにいくつかの実習を行いながら学んだ。

自分の言語的背景を説明する実習では、異なる背景を持つ集団の中でそれぞれの言語・文化資源を理解・尊重しあう感覚を体験した。

参加者からは「今まで疑問に思っていたことが理解でき有意義だった」、「会話だけでなく『対話』の大切さを実感しました。今後の活動に活かしていきたい」などの声が聞かれた。

### ② 多文化共生の担い手ワークショップ ～日本語教育から考える②～(12/16)

第2回は外国につながる子どもと家族への支援を研究・実践している松本 一子 氏(愛知淑徳大学)を講師とし、日本語教育や外国人支援に関わるボランティア、大学教員、学生、団体職員など 42 名が参加した。

第1部の講演「未来を拓く子どもの日本語支援～地域で共有したいこと～」に続き、第2部は実際に日本語を学んだ経験を持つ外国人の体験談を、映像とインタビューで紹介し、将来を見据えた支援の重要性を学んだ。

第3部のグループディスカッションでは、日頃の活動を振り返りながら、支援者同士が効果

的に連携する方法を考えた。

参加者からは「ボランティアで日本語を教えているが、学習者の立場からの話を聞いたことは有意義だった」「単に言語として日本語を教えるだけでなく、外国人市民の自立した生活につながる支援のきっかけとして、広い目線で考えることが必要だと思いました」などの声が聞かれた。

### ③ 日本語ボランティア意見交換会@プラザ(2/13、2/16)

合計7団体14名のボランティアが出席。ほか1団体から書面で意見が寄せられた。学習者、支援者双方が学びやすい環境を作るために、担い手同士の緩やかな連携、ネットワーク作りに向けて、今後も話し合いの場を持っていくことを確認した。



ワークショップ第1回(10/21)



ワークショップ第2回(12/16)

### (9) 取組の目標の達成状況・成果

2回のワークショップは、札幌市内・近郊で外国人支援にかかわる多様な機関・団体の担い手同士が、「日本語教育」をキーワードに情報共有し、学びながら連携する機会をつくることを目的にしている。幅広い団体・個人に参加を呼びかけた結果で、日本語支援ボランティア、日本語教師、多文化共生に関わるボランティア、団体職員、研究者など、多様な担い手が参加した。参加者アンケートにおいても、講演を通じて新たな知識を得たことと同時にワークショップを通じて担い手同士のつながりが生まれたことへの評価が多く挙げられており、組織を越えた連携のきっかけとなった。

### (10) 改善点について

今回の事業を通じてできたつながりを維持していくために、平成24年度限りの事業で終わらせるのではなく、今後も定期的に担い手の勉強会、意見交換会を開催していきたい。

また、今年度のワークショップは2回とも日曜日に開催にしたが、自治体職員・現役教員の参加が少なかったことから、周知に力を入れるとともに開催日時についても検討していきたい。

## ○取組2:日本語で子育て・こどもサロン

### (1) 体制整備に向けた取組の目標

日本語を母国語としない親子が安心して子育て・学習に取り組むためのきっかけをつくる。

(2) 取組内容

①「日本語で子育て～母子保健・離乳食セミナー～」(全3回)

栄養士と協力した栄養指導や札幌市の母子保健制度の講座など、子育てに役立つ日本語を外国人保護者に教える。通訳つき。日英・日中对訳の資料を作成。

②「こどもサロン」(全9回)

多文化の背景を持つこどもたちへの日本語指導を含めた学習支援・居場所づくり。

(3) 対象者

札幌市在住の外国人および多文化の背景を持つ子どもと親

(4) 参加者の募集方法

- ① 札幌市広報誌・当財団行事予定誌への掲載
- ② 札幌市教育委員会を通じた市内小・中学校へのメール通知。
- ③ 小・中学校、日本語学校、ボランティア団体、関係団体への書面による通知。
- ④ 当財団ウェブサイトへの掲載。

(5) 参加者の総数 111人

(出身・国籍別内訳 日本49人、アメリカ23人、中国5人、エジプト4人、ロシア4人、ナイジェリア3人、韓国2人、パキスタン2人、インド2人、マダガスカル2人、タイ2人、エチオピア2人、モンゴル2人、アイルランド2人、ラオス2人、ドイツ、フランス、カンボジア、オーストラリア、カナダ各1名)

(6) 開催時間数(回数) 36時間 (全12回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年7月1日 (日) 13:30～15:30	2時間	札幌国際プラザ交流サロン	15名	エジプト(4)、アメリカ(2)、ラオス(2)、日本(3)、中国、カンボジア、カナダ、ドイツ(各1)	母子保健セミナー「さっぼろで子育てをたのしもう！～赤ちゃんの保健と子育て支援サービスについて知ろう～」	日本語で育児を行う外国人のために、子育てについての不安を取り除き、札幌での子育てを支援する。 第1部 母親の妊娠～3才までの母子保健・子育て支援情報概略 第2部 乳幼児期に代表的な疾患や予防接種について 第3部 フリートーク
2	平成24年7月28日 (土) 9:00～12:00	3時間	札幌国際プラザ交流サロン	8名	日本(3)、インド(2)、アメリカ(1)、韓国(2)	「こどもサロン」七夕飾りを作ろう	多様な文化的背景を持つ子ども及びその保護者に、日本語に触れ、学ぶ機会を提供する。 日本の伝統行事「七夕」の用語を学びながら、作業を楽しむ。
3	平成24年8月11日 (土) 9:00～12:00	3時間	札幌国際プラザ交流サロン	2名	日本(1)、オーストラリア(1)	「こどもサロン」うちわ作り	多様な文化的背景を持つ子ども及びその保護者に、日本語に触れ、学ぶ機会を提供する。 夏休みにちなんで、日本語の文字を入れてオリジナルうちわを作る。
4	平成24年8月25日 (土) 9:00～12:00	3時間	札幌国際プラザ交流サロン	2名	日本(2)	「こどもサロン」工作の時間	多様な文化的背景を持つ子ども及びその保護者に、日本語に触れ、学ぶ機会を提供する。 作業をし、日本語で文字を書く。
5	平成24年10月27日 (土) 9:00～13:00	4時間	札幌国際プラザ交流サロン	7名	日本(3)、アメリカ(4)	「こどもサロン」ハロウィン	多様な文化的背景を持つ子ども及びその保護者に、日本語に触れ、学ぶ機会を提供する。 ハロウィンテーマにした折り紙を作り、日本語でメッセージを入れる。
6	平成24年11月24日 (土) 9:00～12:00	3時間	札幌国際プラザ交流サロン	0名	0名	【休講】 「こどもサロン」ドッチビーで遊ぶ	参加者無しのため休講とした。予定した事業内容は、以下のとおり。 多様な文化的背景を持つ子ども及びその保護者に、日本語に触れ、学ぶ機会を提供する。
7	平成24年12月9日 (日) 13:30～15:30	2時間	札幌国際プラザ交流サロン	13名	中国(4)、ナイジェリア(3)、日本(2)、モンゴル(2)、エチオピア(2)	母子保健セミナー「さっぼろで子育てをたのしもう！～赤ちゃんの保健と子育て支援サービスについて知ろう～」	日本語で育児を行う外国人のために、子育てについての不安を取り除き、札幌での子育てを支援する。 第1部 母親の妊娠～3才までの母子保健・子育て支援情報について 第2部 乳幼児期に代表的な疾患や予防接種について 第3部 質疑応答

8	平成24年12月22日 (土) 9:00～13:00	4時間	札幌国際プラザ交流サロン	27名	日本(8)、アメリカ(14)、ロシア(2)、 フランス(1)、韓国(2)	「こどもサロン」 フィンランドからサンタがやってくる!	多様な文化的背景を持つ子ども及びその保護者のサポートを目的に、札幌での教育を支援する。
9	平成25年1月12日 (土) 9:00～12:00	3時間	札幌国際プラザ交流サロン	2名	日本(2)	「こどもサロン」 お正月	多様な文化的背景を持つ子ども及びその保護者に、日本語に触れ、学ぶ機会を提供する。 日本の正月文化に触れ、日本語で年賀状を書く。
10	平成25年1月17日 (木) 14:00～15:00	1時間	札幌国際プラザ会議室	31名	日本(19)、マダガスカル、エチオピア、 タイ、アイルランド、ロシア、アメリカ(各2)	外国人親子のための 離乳食・幼児食セミナー	札幌で育児を行う外国人のために、離乳食に関する情報を提供。 離乳食・幼児食について、離乳食を実際に見せ、日本の食育や食べ方などを人形などで説明。後半は2名の栄養士を加え相談会。言語サポート付き。
11	平成25年1月26日 (土) 9:00～13:00	4時間	札幌国際プラザ交流サロン	11名	パキスタン(2)、日本(9)	「こどもサロン」 中国・韓国のごどもに年賀状を書こう	多様な文化的背景を持つ子ども及びその保護者に、日本語に触れ、学ぶ機会を提供する。 日本人のごどもと一緒に、旧正月を過ごす中国・韓国のごどもに日本語とその国の言葉で年賀状を書く。
12	平成25年2月23日 (土) 9:00～13:00	4時間	札幌国際プラザ交流サロン	5名	インド(2)、日本(3)	「こどもサロン」 ひなまつり	多様な文化的背景を持つ子ども及びその保護者に、日本語に触れ、学ぶ機会を提供する。 ひなまつりの飾りを作り、日本語でメッセージを入れる。

## (8) 特徴的な活動風景

### ① 母子保健セミナー(7/1、12/9)

乳幼児を育てていた、これから出産や子育てを予定したりしている外国人保護者を対象にセミナーを開催した。セミナーは日本語で行い、子育てにかかわる日本語に触れる機会とした(英語通訳付き)。保健師、札幌市子ども未来局職員が、妊娠から出産、保健制度や予防接種、札幌市が行う保育サービスについて案内し、小児科医が予防接種、女性の保健等について説明した。セミナー後の意見交換会では、講師の方たちに活発に質問する参加者の姿がみられた。

### ② 外国人親子のための離乳食・幼児食セミナー(1/17)

3歳までの子供を育てている外国籍の親を対象に、赤ちゃんへ食事の与え方や離乳食・幼児食についてのセミナーを開催。文化の違いや言葉がわからず不安を感じている外国人住民が、少しでも安心して子育てできるよう、栄養士が日本の食育について実演を交えながら日本語で説明した(英語通訳付き)。実際に離乳食を見せたり、スプーンでの食べさせ方や、おやつとしての煮干しや昆布を紹介したりした。後半は2名の栄養士も加わり、個別に日本語で答えた。

参加者は質問をしたり、メモを取ったりと熱心に食事について学んでいた。感想からは、「子育てをする他の親と知り合いたかったため参加した」など、日本語による知識習得のほかにも親同士の交流を求めていることもうかがわれた。

### ③ こどもサロン(7/23～2/23、全9回)

外国につながる子どもと家族の居場所づくりを目的に、毎月第4土曜日(8月、1月は第2・4土曜日)午前中に開催。季節の行事と日本語指導を組み合わせ、楽しみながら日本語に親しむ環境を作った。外国語サポーターが学校からの案内を簡単な日本語に言い換えたり、ルビを振ったりする支援を行った。このサロンは親同士が交流したり、外国語サポーターに日本での生活の悩みを相談したりする場にもなった。



母子保健セミナー(7/1)



離乳食セミナー(1/17)



こどもサロン(5/26)



こどもサロン(1/26)

#### (9) 取組の目標の達成状況・成果

母子保健セミナー、離乳食セミナーには、乳幼児の保護者または妊娠中の親が参加した。子育てをするうえで必要な日本の言葉に触れるとともに、同時にすぐに役立つ母子保健・離乳食に関する知識を伝えることができた。

こどもサロンは「楽しみながら日本語に親しむ」ことを目標にした。かるたや年賀状書きといった遊びを通じて、生活や学習に必要な日本語を身につけた。また、サロンを訪れた日本人の子どもとの自然な交流も生まれた。

#### (10) 改善点について

母子保健セミナー、離乳食セミナーは日本語と英語で実施したが、専門用語はわかりづらいという意見があったことや札幌市の外国人の在住状況を考慮し、中国語でのサポートも検討したい。また、今年度は全て札幌国際プラザを会場として行ったが、今後は各保健所などとの連携により市内各所で開催するなど、子育て中の親子がさらに参加しやすい開催方法を考えたい。

こどもサロンは事前申し込みを不要としたため、参加者の数にばらつきがあった。また土曜日午前中は家族で過ごす外国人も多いことがわかったため、来年度は開催方法、日時を検討したい。

### ○取組3:災害が起きたらどうする？外国人と一緒に学ぶサバイバル日本語

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本人・外国人双方に、災害発生時の際の共通言語として「やさしい日本語」の有用性を知らせる。

(2) 取組内容

防災訓練に参加したり、防災体験施設を見学・体験したりしながら、災害時に必要な日本語を実践的に学ぶ。

(3) 対象者

札幌市在住の外国人、日本人

(4) 参加者の募集方法

- ① 札幌市広報誌・当財団行事予定誌への掲載
- ② 札幌市教育委員会を通じた市内小・中学校へのメール通知。
- ③ 小・中学校、日本語学校、ボランティア団体、関係団体への書面による通知。
- ④ 当財団ウェブサイトへの掲載。

(5) 参加者の総数 126人

(出身・国籍別内訳 日本 69人、国籍非公開 28名、中国 18名、アメリカ 2名、韓国、フィリピン、カザフスタン、スウェーデン、ウェールズ、ウクライナ、カンボジア、台湾、ブルガリア各1人)

(6) 開催時間数(回数) 12時間 15分 (全4回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年6月30日 (土) 13:00~15:45	2時間 45分	札幌国際プラザ	27名	日本(24)、中国、アメリカ、ウクライナ(1)	地域の中の外国人災害時にどうなる？どうする？ ～国際交流ボランティア講座～	・講義「国際交流から多文化共生へ～札幌在住の外国人の現状～」 ・体験ゲームを通じて楽しみながら言葉や文化の壁を実感する。
2	平成24年8月31日 (金) 9:00~12:00	3時間	東米里	33名	中国(4)、スウェーデン(1)、国籍非公開(28)	防災ツアー2012	札幌市総合防災訓練に参加し、日本語の防災用語にふれる。
3	平成24年11月23日 (金・祝) 9:00~12:30	3時間 30分	札幌市民防災センター	34名	日本(17)、中国(10)、ウェールズ、台湾、ブルガリア、パキスタン、カザフスタン、アメリカ、韓国(各1)	防災の日本語講座	日本語講座「防災の日本語：シンプルな日本語で！」 防災センター体験施設での疑似体験
4	平成25年2月2日 (土) 14:00~17:00	3時間	札幌市民ホール	36名	日本(28)、中国(4)、ブルガリア、フィリピン、アメリカ、カンボジア(各1)	「災害図上訓練(DIG)を通して多文化防災を考える」	・外国人講師による講演、「災害時における外国人住民の現状と課題」 ・グループごとに災害図上訓練を行う。

(8) 特徴的な活動風景

① 地域の中の外国人 災害時にどうなる？どうする？～国際交流ボランティア講座～(6/30)

外国人と日本人が互いに「隣人としての外国人」の存在を認め、普段から顔の見える関係を築くためには、外国人が日本で生活するうえでどんな問題に直面するのか、日本人も理解する必要がある。

この講座では、札幌市在住の外国人とともに災害をテーマにした体験ゲームを通じて言葉や文化の壁について学んだ。参加者はロシア語やアラビア語で書かれている表示を見ながら、意味を理解できないまま選択を迫られ、非常時に言葉がわからないという不安な状況を体験した。

その後、外国人住民の体験談を交えながら、日本語で意見交換を行った。参加者からは「日本人が何気なく使っていた『避難所』という言葉も、外国人にとっては初めて耳にする言葉だと気づいた」、「いざという時に助け合うためには地域のつながりが大事」など、今後の地域での活動につながる感想が聞かれた。

② 防災の日本語講座(11/23)

SIL 札幌日本語学校の島 治美氏の講義で、災害時に共通言語となる「やさしい日本語」を学んだ。外国人参加者からは、「数年間日本で暮らしているけれど、『避難所』という言葉は聞いてもわかりません。『逃げるところ』『安全なところ』と言い換えてもらえると、まだ日本語を勉強中の外国人にも分かるのでは？」、日本人参加者からは「日本語でどう言い換えれば伝わるのか、日本人にとっても難しい。」などの感想が聞かれた。

座学の後には、グループごとに札幌市防災センターの施設を体験し、防災に関する日本語を実際に使う練習をした。

③ 災害図上訓練(DIG)を通して多文化防災を考える(2/2)

最初に、(特活)多文化共生マネージャー全国協議会の時光氏が、「災害時における外国人住民の現状と課題」というテーマで講義した。外国人スタッフの目線で被災地・仙台での支援活動の報告を通して、「言葉の壁を乗り越えれば外国籍市民も支援者になれる」というメッセージを伝えた。

講義に続き行われた災害図上訓練では(財)北海道国際交流センターの池田誠氏をファシリテーターに迎え、グループごとに災害図上訓練(DIG)を行った。参加者が住む地域の地図を囲み、避難経路や、要援護者の住む場所などを書き込みながら話し合った。外国人参加者からは、日本人が気づきにくい点についての意見もあり、双方にとって大変有意義な訓練となった。



国際交流ボランティア講座(6/30)



防災ツアー2012(8/31)



防災の日本語講座(11/23)



災害図上訓練(DIG)(2/2)

#### (9) 取組の目標の達成状況・成果

ゲームやグループトークなど、様々な手法を用いて交流をしながら、日本で災害が起きた時に十分な情報を得られない可能性がある外国人にとって、共通言語としての日本語がいかに重要であるか、外国人と日本人の双方が気づき、学ぶことができた。

参加者アンケートからは、「災害時に日本語を話せない外国人の行動や、考えの実例が紹介された例により、非常時に言葉での情報が得られる状態をイメージする助けとなった」「外国人が直面する被災時の問題点(心理面を含めて)を認識することができた」等の意見が聞かれた。また、外国人参加者からは「日常生活に使う日本語に不自由は無いと思っていたが、災害などの非常時に使う用語は初めて聞くものが多かった。いざという時のために普段からそうした用語に気をつけていきたい」などの感想が聞かれた。

#### (10) 改善点について

今回行ったのは、いわば導入となる事業だったので、次年度以降は、災害時に実際に使用することができる防災カードに日本語で自分の情報を記入してみるなど、さらに実践的な内容にしていきたい。

#### ○取組4: 日本文化・生活・スポーツ体験ツアー～いってみよう！ やってみよう！～

(1) 体制整備に向けた取組の目標

体験を通じて日本の文化や習慣に親しみを持ち、日本語を学ぶ楽しさを知ってもらう。

(2) 取組内容

藍染め体験、着付け、書道など日本文化の講義と体験を通じて日本語を学び、地域で日本文化保存に取り組む日本人と交流する。スポーツを地域住民とともに楽しみながら日本語を学ぶ。

(3) 対象者

札幌市在住の外国人、日本人

(4) 参加者の募集方法

- ① 札幌市広報誌・当財団行事予定誌への掲載
- ② 小・中学校、日本語学校、ボランティア団体、関係団体への書面による通知。
- ③ 当財団ウェブサイトへの掲載。

(5) 参加者の総数 260 人

(出身・国籍別内訳 中国 107 人、日本 75 人、韓国 15 人、インドネシア 9 人、アメリカ 8 人、インド 2 人、台湾 6 人、タイ 6 人、香港 5 人、国籍非公開 4 人、ロシア 3 人、グルジア 2 人、カナダ 2 人、イギリス 2 人、ドイツ、ブルガリア、パキスタン、キルギス、ウクライナ、カザフスタン、メキシコ、コロンビア、シンガポール、スイス、デンマーク、スウェーデン、ベトナム、マレーシア各 1 名) ※国、地域名の表記は参加者の希望に従った。

(6) 開催時間数(回数) 20 時間 30 分 (全 5 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年7月16日 (月・祝)13:30～15:00	1時間 30分	札幌市教育文化会館	18名	日本(8)、アメリカ(5)、 インド(2)、国籍不明 (3)	「バイリンガル狂言」鑑賞	英語と日本語を用いて上演される「バイリンガル狂言」を鑑賞する。公演前に入門講座があり初心者にも理解しやすいことから、外国人が日本の文化と日本語に親しむ機会となる。
2	平成24年10月31日 (水) 12:30～15:00	2時間 30分	札幌市北区民センター	13名	中国(7)、香港(2)、台湾、 アメリカ、タイ、ロシア (各1)	「藍染体験・交流会」	北区住民が地域の伝統文化として伝承に努めている「藍染」を外国籍市民が体験し日本文化にふれるとともに、指導にあたった「篠路天然藍染振興会」との交流会を行い、相互理解と交流促進を図る。
3	平成24年11月23日 (金・祝) 12:30～16:00	3時間 30分	どうぎんカーリングスタジアム	34名	日本(17)、中国(10)、 ウェールズ、台湾、ブルガリア、 パキスタン、カザフスタン、 アメリカ、韓国 (各1)	「カーリング」体験	外国人と日本人と一緒にカーリング場を見学、体験しながら日本語を使って交流する。
4	平成24年12月8日 (土) 9:30～14:30	5時間	札幌大学	84名	中国(54)、韓国(6)、 日本(24)	留学生もちつき大会	日本の正月文化「もちつき」や、カルタ、福笑いなどの伝統遊びを通じて日本語にふれ、日本語を使って地域住民と交流する。

5	平成24年12月27日 (木) 12:00~16:30	4時間 30分	札幌国際プラ ザ	56名	中国(24)、日本(14)、 香港(3)、韓国(3)、台 湾(2)、カナダ(2)、キル ギス、イギリス、ロシ ア、ウクライナ、ドイツ、 アメリカ、インドネシア (各1)	「体験しよう！日本の お正月」	年賀状作成、カルタ大会などで日本語にふれなが ら、日本の正月文化を楽しむ。
6	平成25年3月2日 (土) 12:00~15:30	3時間 30分	札幌国際プラ ザ	70名	日本(25)、中国(14)、 インドネシア(8)、韓国 (5)、タイ(5)、台湾 (2)、グルジア(2)、メキ シコ、コロンビア、デン マーク、シンガポール、 ロシア、スイス、スウェー デン、ベトナム、マレー シア(各1)	「ひなまつり」体験	楽器の演奏、茶道体験、着付け体験などを通じて日 本語で交流しながら、日本のひなまつり文化を楽し む。

## (8) 特徴的な活動風景

### ① 藍染体験・交流会(10/31)

北区住民が地域の伝統文化として伝承に努めている「藍染」を、篠路天然藍染振興会の指導のもとに体験した。振興会の方々も、外国人に藍染を指導することは初めてだったが、日本語で積極的に参加者に話しかけ、工程を丁寧に教えていた。

体験後の交流会は、終始なごやかな雰囲気、藍染体験の感想やお互いの国の文化について、日本語で会話が弾んでいた。参加者からは「以前から興味があった藍染を体験できて嬉しかった」、「初めて自分でハンカチを染めた忘れられない体験になりました」、「日本語を話す人ばかりの環境に置かれることは新鮮だった」などの感想が寄せられた。

### ② カーリング体験(11/23)

平成24年9月に完成したばかりのどうぎんカーリングスタジアムを会場に、昼食交流会とカーリング体験を行った。最初は恐る恐る氷の上を歩いていた参加者も、2時間後にはミニゲームができるほど上達した。参加者からは「カーリングは初めてでしたが、とても楽しかった」「最後は自然に日本語で会話していました」などの声が聞かれた。

### ③ 「体験しよう！日本のお正月」(12/27)

札幌に暮らす留学生の中には年末年始を日本で過ごす者も多い。そうした留学生に日本の正月文化を体験しながら日本語に親しんでもらう機会を設けた。会場には羽子板飾りやしめ縄、鏡餅、干支のへびの置物などが飾り付けられ、また振袖・袴の着付けを体験した参加者が加わり、一層お正月らしい雰囲気となった。メインステージでは「落語」を聞いたほか、「二人羽織」や「お正月クイズ」を行った。

年賀状作成コーナーでは様々な色の筆ペンが用意され、参加者は見本を参考にしながら、日本語を用いて楽しそうに年賀状を書いていた。

会場では他校の留学生や日本人の学生ボランティアとも連絡先を交換し合い、新しい交流も生まれた。



藍染体験・交流会(10/31)



カーリング体験(11/23)



体験しよう！日本のお正月(12/27)



ひなまつり(3/2)

#### (9) 取組の目標の達成状況・成果

気軽に参加できる体験イベントを通じて日本語に親しみ、参加者同士(日本人、外国人)が自然に交流できるように配慮した結果、どのイベントでも参加者が積極的に会話、交流する姿が見られた。参加者アンケートでは、日本人から「面白い企画でした。イベントを通して外国人とのコミュニケーションがスムーズにできました」、外国人から「とても楽しく、たくさんの人と話して、日本語を使って楽しめた」という声が多く聞かれた。

#### (10) 改善点について

日本語を使って日本文化・スポーツ体験をするなどの交流に興味を持つ外国人は多いが、予算や運営人員に制約があるため、大規模なイベントを独自に開催する機会は限られる。

参加の機会を増やすために、外国人住民から要望があった「地域で気軽に参加できるボランティア」など、多様な交流の場を提供していきたい。

### ○取組5:こどものための多文化共生シンポジウム～日本語教育から考える～

(事業名『多文化共生シンポジウム～日本語で創ろう 多文化共生都市・札幌の未来～』)

#### (1) 体制整備に向けた取組の目標

取組の成果発表を通じて日本語教育の重要性を広く市民に伝え、多文化共生への理解を促す。

(2) 取組内容

市民を対象にシンポジウムを開催し、札幌における外国人・多文化の背景を持つ市民への日本語教育の現状や課題の理解を深めてもらう。

(3) 対象者

札幌市在住の外国人、日本人

(4) 参加者の募集方法

- ① 札幌市広報誌・当財団行事予定誌への掲載
- ② 札幌市教育委員会を通じた市内小・中学校へのメール通知。
- ③ 小・中学校、日本語学校、ボランティア団体、関係団体への書面による通知。
- ④ 当財団ウェブサイトへの掲載。
- ⑤ 新聞への募集記事掲載依頼(2紙に掲載)。

(5) 参加者の総数 66 人

(出身・国籍別内訳 日本 65 人、ロシア 1 人)

(6) 開催時間数(回数) 4 時間 (全 1 回)

(7) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成25年2月24日 13:00～17:00	4時間	札幌国際ビル国際ホール	66人	日本(65人)、ロシア(1名)	『多文化共生シンポジウム～日本語で創ろう多文化共生都市・札幌の未来～』 今年度文化庁委託事業として行った多様な取り組みの成果を広く市民に向けて発表し、外国人のための日本語教育への理解を促すとともに、新たな担い手の発掘および既存の担い手の連携を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 導入『生活者としての外国人』のための日本語教育」 コーディネーター:野山 広 氏(国立国語研究所准教授)</li> <li>◆ 基調講演「将来をみすえた日本語支援 ―外国につながる子どもと家族の視点から」 講師:松本 一子 氏(愛知淑徳大学非常勤講師)</li> <li>◆ 対談「ライフ(生活)という視点から共生のつくりを考える」 野山 広氏・松本一子氏</li> <li>◆ 会場の参加者との意見交換、質疑応答 ◇ 外国人住民による事例発表 日本語を学ぶ体験談を映像で紹介。新作1本、第2回WSで紹介した2本。</li> <li>◆ 報告 「多文化共生コミュニティ形成のための日本語教育事業」実施報告</li> <li>◆ パネルディスカッション「多様な担い手がつくる多文化共生コミュニティを目指して」 神谷 順子 氏(北海学園大学非常勤講師) 三浦 正博 氏(北海道日本語教育ネットワーク役員)</li> <li>後藤 道 ((公財)札幌国際プラザ 参事) コーディネーター:野山 広 氏、助言者:松本 一子 氏</li> <li>◆ 会場の参加者との意見交換会</li> <li>◆ 全体総括</li> </ul>

(8) 特徴的な活動風景

外国人支援の現状と課題、幅広い担い手の連携を目指す取り組みを紹介し、地域のひとりひとりができる事を考える機会としてシンポジウムを開催した。

コーディネーターである野山 広氏(国立国語研究所准教授)の導入講演の後、松本一子氏(愛知淑徳大学非常勤講師)による基調講演を行った。講演では、複数の言語で生活す

る子供に大切なこと、外国人児童生徒教育に関する国の施策をとりあげ、将来を見据えた支援の重要性が語られた。また、事例発表として日本語を学習する外国人のインタビュー3件を紹介した。

その後、平成24年度文化庁委託事業として当財団が実施した取組の成果を報告した。

パネルディスカッションでは、札幌を拠点に活動する3人の担い手、神谷 順子 氏(北海学園大学非常勤講師)、三浦 正博 氏(北海道日本語教育ネットワーク運営委員)、後藤道(札幌国際プラザ 参事)が、日本語支援の現状と、担い手の連携によって生まれるより充実した支援の可能性について話し合った。



#### (9) 取組の目標の達成状況・成果

講演とパネルディスカッション、1年間の取組成果の発表を通じて、札幌の外国人・多文化の背景を持つ市民への日本語教育の現状や課題を知らせることができた。パネルディスカッションであげられた「誰もが自分の経験や能力を活用して、外国人も日本人も安心して暮らす地域づくりの担い手になれる」というメッセージに、参加した市民は熱心に耳を傾けていた。

参加者アンケートでは、「自分にできることは何か考えたい」という前向きな感想が聞かれた。既存の団体同士の連携の促進と同時に、意欲を持った潜在的な担い手への働きかけを行うことができた。

1年間の取組の中で、3件の外国人・帰国者の日本語学習体験談を聞き取り、映像として発表したが、支援者から参考事例として自分たちの勉強に使いたいといったリクエストが多く寄せられ、貸し出しを行うことで担い手育成・支援にもつながった。

また、シンポジウム資料なども研修資料としての活用を希望されるなど、成果を発表・共有することで、地域の担い手支援につながっている。

#### (10) 改善点について

多くの市民が参加できるよう、日時・会場を設定したが、同日時に市内で多文化共生に関係するイベントが複数開催され、当初の予定より参加者が少なかった。しかし、シンポジウムの前後に、参加を見送った複数の個人・団体から資料請求や内容についての問い合わせがあったことから、関心の高さが伺える。

既に多様な分野で外国人支援活動をしている担い手と同様、これまで日本語支援や多文化共生に関わったことが無い市民にも、こうした取り組みを広く知らせる機会を継続的に設けることは、有意義だと考える。そのため、安定的な財源や共催団体の確保に向けた活動が必要である。

また、地域国際化協会として当財団の先導的な役割を期待する声も多かった。今後、担い手・関係団体に信頼されるハブ、コーディネーターとして、主体性を持って事業を行っていく必要性がある。

## 6. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的

札幌市の外国人住民は市内に点在して居住しており、日本語が理解できない場合は地域で孤立することもある。子育てや災害時など、住民同士が言葉の壁を越えて助けあう多文化共生コミュニティをつくるためには、外国人だけでなく日本人に対しても日本語教育の重要性の理解を広げる必要がある。また、目的達成のために幅広い担い手の連携を目指す。

### (2) 事業目的の達成状況

運営委員会が行った振り返りでは、取組を通して日本語教育の重要性を多面的にとらえ、外国人住民が日本語にふれる多様な機会を創出したこと、また、ボランティア、関係団体、行政を含めた多様な担い手が参画したことが評価された。

今年度の委託事業では、事業参加者、指導者、協力者等、延べ 950 人を超える市民がかかわった。事業には各ボランティア団体の代表や、学校教員、外国人コミュニティの核となる方の参加も見られ、取り組みの成果が派生的に広がっていくことが期待される。

外国人参加者にとっては、事業を通じて日本で暮らすための日本語習得の重要性を確認し、日本語を使って積極的に地域行事等に参加することで、支援を受けるだけでなく自らも多文化共生コミュニティ形成の担い手となる意識を持つ機会となった。

来年度に向けて、日本語ボランティアの緩やかなネットワーク形成や、日本語学校と学習支援ボランティアの連携など、当財団をハブに、「日本語教育」をキーワードにした幅広い連携の足がかりを作ることができた。

### (3) 地域における事業の効果、成果

札幌市の外国人住民は増加傾向にあるが、全住民に占める割合は 0.5%と政令指定都市としては少なく、日本人住民の間では多文化共生についての意識が低いと推察される。また日本語教育に関しては各ボランティア団体の自主性に負うところが多いが、学習レベルに応じたきめ細かい日本語教育を推進するためには、行政を含め担当の各機関・団体の連携を強化していく必要がある。

取組1では、市内で活動する日本語支援ボランティア、その他の外国人支援ボランティア、教員、学生、団体職員などが、事例を学びながら札幌での現状について意見を交換し、より良い活動に向けた協力のあり方を考えたことにより、新しいつながりができたり、地域間の担い手連携の強化につながったりした。

取組2、3、4では、外国人が自然に日本語にふれ、地域の日本人とのふれ合いを通して日本文化に親しみながら日本語学習の重要性を知る機会を創出した。また、日本人の参加者・指導者にとっても、事業を通じて外国人住民とふれあい、彼らを同じ地域に暮らす住民として意識する機会になったほか、自らが日本語支援の担い手になっていることが実感できた。

取組5のシンポジウムでは、これまでの取組を振り返ることで、多文化共生のまちづくりを推進するためには特別な能力を持った誰かではなく、地域の一人ひとりが担い手であることをあらためて認識してもらうことができ、日本語教育支援者の育成のきっかけとなった。

#### (4) 改善点, 今後の課題について

##### i 現状

今回の委託事業を通じて、既存の担い手同士がつながったり、新しい担い手を発掘できたりするなどの成果が見られたが、札幌市における外国人住民支援の体制は十分とは言えない。外国人住民の目線に立ったきめ細かい支援をするためには、行政、ボランティア、支援団体、外国人住民自身などがそれぞれの特性を活用しながら、さらに連携を進める必要がある。

##### ii 今後の課題

札幌市では外国人住民に占める留学生の割合が多く、これまでは期限付きの滞在を前提にした施策、事業が多かった。しかしこれからは、出産・子育ての支援、就学・就労支援、高齢者支援など、彼らの暮らしを「生涯」というスパンで考える、更に広い意味での「多文化共生のまちづくり」を推進する必要があり、まちづくりの各分野で日本語の支援が必要な外国人住民にも配慮した取組が求められる。

##### iii 今後の活動予定

平成 25 年度は対象事業の変更があったため同委託事業への申請を見送ったが、このような担い手連携の取組や日本語教育関係者とのつながりは、委託事業という形でなくとも継続していきたい。例えば、道内で先駆的な取り組みを行っている方を講師としたワークショップを行うなどの形が考えられる。今年度の運営委員にも、アドバイザー的な役割で事業への協力を依頼する。

#### (5) その他参考資料

別添 事業イメージ図

別添 参加者アンケート

## 参加者アンケートまとめ

(公財) 札幌国際プラザ

実施日	事業名	取組
7月1日	母子保健セミナー	取組 2
7月16日	「バイリンガル狂言」鑑賞	取組 4
8月31日	防災ツアー	取組 3
10月21日	多文化共生の担い手ワークショップ第1回	取組 1
10月31日	「藍染体験・交流会」	取組 4
11月23日	バスツアー(防災の日本語講座、カーリング体験)	取組 3 取組 4
12月9日	母子保健セミナー	取組 2
12月16日	多文化共生の担い手ワークショップ第2回	取組 1
H25年1月17日	外国人のための離乳食セミナー	取組 2
H25年2月2日	「災害図上訓練(DIG)を通して多文化防災を考える」	取組 3
H25年2月24日	多文化共生シンポジウム	取組 5

※アンケートを実施し、回答が得られた事業のみ。

## 母子保健セミナー アンケート集計 (7/1)

当日参加者 9 組 15 名 内 6 組 11 名より回答

母子保健セミナー「さっぽろで子育てを楽しもう！～赤ちゃんの保健と子育て支援サービスについて知ろう～」にお越しいただき、ありがとうございます。今後のより良い事業の実施に向けてアンケートにご協力をお願い申し上げます。

1. あなたの国籍を教えてください。
  - ・エジプト (2 組)
  - ・ドイツ
  - ・カンボジア
  - ・中国
  - ・ラオス
  
2. あなたが十分に理解し話せる言語は何ですか？
  - ・中国語、日本語、英語、フランス語
  - ・ドイツ語・英語
  - ・英語
  - ・英語
  - ・英語
  - ・英語
  
3. セミナーのことはどこで知りましたか？
  - ① プラザホームページ
  - ② チラシ (at: )
  - ③ 友人から …2 組
  - ④ 職場・学校で( )
  - ⑤ メールマガジン …1 組
  - ⑥ その他…3 組 (SEMI に病院でのサポートを受けた。)
  
4. これまで、(財)札幌国際プラザの 3 F 交流サロンを利用したことがありますか。
  - ① Yes ある…3 組 No ない…3 組
  
5. 本日のセミナーに参加された目的は何ですか？ (複数回答可)
  - ① 子育て全般に興味があるため…6 組
  - ② 子供の保健に興味があるため…4 組
  - ③ 保育などの情報に興味があるため…3 組
  - ④ 子育てをする他の親と知り合いたかったから…1 組
  - ⑤ その他 ( )
  
6. 参加されての感想をお聞かせください。
  - ① Great 大変満足…6 組 ② Good 満足
  - ③ So-so 不満 ④ Dissatisfied 大変不満
  
7. 上記 6 の質問で③、④と答えた方に伺います。理由をお聞かせください。

( )

8. 子育てをする日本人との交流イベントがあれば参加したいですか？

①参加したい…4組 ②参加したくない ③どちらともいえない…2組

9. 他にどのようなイベントやセミナーがあれば参加したいですか？

- ・なんでも
- ・子育て、文化交流
- ・英語で何かお母さんのためのクラス

10. 今後このようなセミナーやイベントを開催する際、他の外国籍のご両親のために経験者として参加をお願いしてもよろしければ、お名前とメールアドレスをお知らせください。

参加者6組全てにご記入いただきました。いただいた個人情報は別に保管します。

11. If you have any further comments or opinions regarding the program, please tell us (constructive comments and criticism are more than welcome).

その他、参加しての感想・意見をお願いします。

- ・良かったです。ありがとうございます。
- ・もし、参加者が全員外国人で英語を理解できれば日英の通訳は必要ないと思う。参加者に確認してから進行を決めてはどうか。
- ・主婦のための保育所を作りたいと思いました。

Thank you for your time!

(公財)札幌国際プラザ 「日本文化・スポーツ体験ツアー」

第1回 「バイリンガル狂言」鑑賞 (2012.07.16)

SICPF: Japanese Culture and Sports Experiencing Tour vol.1 “Bilingual KYOGEN”

ほんじつ <sup>さんか</sup> 本日はご参加ありがとうございました! イベントの <sup>かんそう</sup> 感想を <sup>おし</sup> 教えてください。 <sup>こんご</sup> 今後の

イベントの <sup>さんこう</sup> 参考に <sup>いただ</sup> させていただきたい <sup>おも</sup> と思います。

Thank you for attending the event today! How did you enjoy the performance?  
We welcome your comment and suggestion for future events.

- とても面白かった。日本語・英語の両方を使った上演方法も良かった。
- 上演前のセミナーは少し長かった
- とても楽しめた。上演前のセミナーにより、理解が容易になった。
- 日本文化を知る良い機会なので、もっと上演されるべき。
- 日本文化の軽く楽しい側面を発見できた。

にほんぶんか <sup>にほんご</sup> と日本語 <sup>たい</sup> に対する <sup>した</sup> 親しみは <sup>ふか</sup> 深まりましたか?

Do you feel closer to Japanese culture and language through the event?

- はい
- そう思う

これからも <sup>こくさいぶらざ</sup> 国際プラザから <sup>イベント</sup> イベントに関する <sup>かん</sup> 情報 <sup>じょうほう</sup> を <sup>う</sup> 受け取りたいですか?

Would you like to receive messages about culture and sports events from SICPF?

はい・Yes! ⇒ e-mail \_\_\_\_\_  いいえ・No

Thank you! Please hand it to Plaza staff or send an e-mail to...

tabunka@plaza-sapporo.or.jp ☺

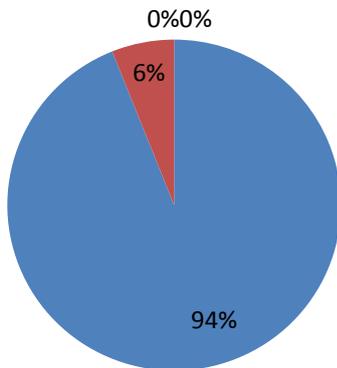
## 防災ツアー 参加者アンケート結果 (8/31)

当日参加者5名より回答

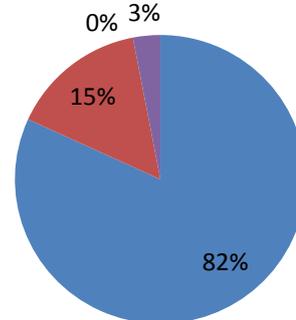
1. これまで札幌国際プラザを利用したことがありますか？  
はい 0人 いいえ 5人
2. 今回の「防災ツアー」は有意義でしたか？  
とても有意義 2人 有意義 3人 あまり有意義ではない 0人  
有意義ではない 0人
3. 「防災ツアー」に参加して初めて知ったことがあれば教えてください。
  - ・地震体験 (2人)
  - ・心臓マッサージ
  - ・消火器体験
  - ・日本は全面的な防災処置があるので地震は大丈夫だと思います。防災訓練を受けて経験を積んだので他の人も助けられると思います。
4. 災害がおきたときのことについて、あなたが特に心配していることはなんですか？
  - ・特になし (2名)
  - ・家族と連絡がとれない
  - ・火事の時に焼けたり、地震の時に重いものに押しつぶされることが心配
  - ・自分は安全だけど、他の人はどうなるのか。
5. あなたの家では災害に備えてどんなことをしていますか？
  - ・非常食と水
  - ・準備しています。
  - ・何もしていません。(3人)
6. 今後防災のためのイベントに参加するとしたら、どのようなイベントに参加したいですか？また、防災について今後どのようなことについて知りたいですか？
  - ・AED (2人)
  - ・特になし
  - ・なんでもいい。全部。
  - ・火事や地震の時の逃げ方
7. その他、今日の「防災ツアー」について感想をお聞かせ下さい。
  - ・面白かった。
  - ・専門、すごい、おもしろい、ありがとうございました。
  - ・勉強になりました。ありがとうございます。
  - ・いいと思います。
  - ・特になし

## 第一部 講演について

### 有意義な講演内容であった

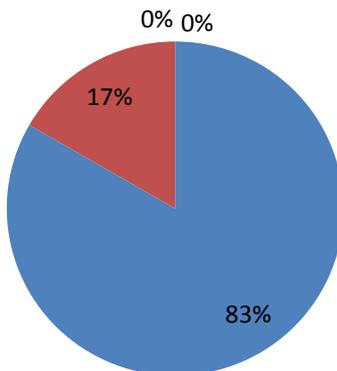


### 関心が高まったり 新たな発見があった

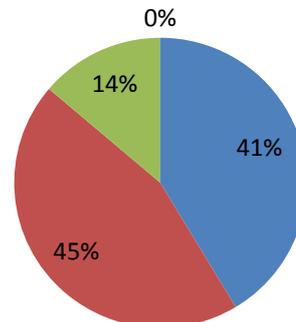


## 第二部 ワークショップについて

### 有意義なワークショップとなった



### 連携に関心が高まったり 新たな発見があった



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

### 1. 第一部 講演について

- ・新情報もおり交ぜて実例も多く紹介して下さったので収穫が多かったです
- ・地域で日本語学校支援や多文化交流に参加するうえで一番基本になる大切なことに目を向けさせて頂きました
- ・今まで疑問に思っていたことなどが理解でき大変良かった
- ・日本及び中国、韓国の取り組みを知り日本においてももっと力を入れて欲しいと思った。今後に期待している
- ・仕事だけでなく生活にも役立つことのできる内容で大変勉強になりました。
- ・とても分かりやすく、事例をあげながら説明してくれたので参加して良かった
- ・もう少しデータの説明があるのかと思いましたがワークショップもありましたしその準備段階のお気持ちがあったお話だったように思います。
- ・2つの映像を使ってくれて良かったです。話だけでなく良かったです。
- ・大変面白く伺いました。
- ・人と人との交流の仕方を改めて見つめなおすことが出来ました。
- ・外国人とのトラブルはまずその原因を探ることの大切さを学びました。これからますます様々な地域(外国)から人を受け入れなくてはならなくなるでしょうから、お互いの理解が大切になりますね。
- ・わかりやすかった

- ・許容範囲の話等は非常に参考になりました
- ・新たな発見があり面白かったです。具体的な例でとても分かりやすかったです。
- ・これぞ多文化共生WSです。日本教育者の集まりでかたい話などになったらどうしようと思っていましたが私にとってはとても楽しい時間でした。
- ・大変有意義なご講演でした。お話に引き込まれました。
- ・幅広い視点からお話していただき色々参考になりました。
- ・大変興味深く、役に立つお話でした。これからもじっくりと考え実践につなげていきたいと強く思いました
- ・大変納得する話が多く有意義な時間でした。ありがとうございます。
- ・内容は面白く、有意義でした。会話ではなく対話の大切さを痛感しました。今後自分ももっと話をする時の注意としていきたい。
- ・わかりやすいご講演でした。

## 2. 第二部 ワークショップについて

- ・感情的な面を体感できる内容が多く良かったと思う
- ・自ら体験しながらコミュニケーションの取り方、考え方を学ぶ事ができ、今後の参考にさせて頂きたいと思いました
- ・参加者と楽しく話す場を与えられました
- ・アクティビティーはとても参考になった
- ・講演を聴くだけでなく周りの人と話し合うことでより具体的なイメージを浮かべることが出来ました
- ・外国籍の方々が日本に溶け込みたいという気持ちを強く持っていることが改めて分かった。
- ・団体間での情報交換ではなかったので連携にはつながらなかったかもしれないです
- ・それぞれが出来るところをする、という参加した方々を尊重したワークショップだったと思います。
- ・内容はすごく新鮮で良かったですがグループを変えてさらに自由に誰とでも交流できるような形であるともっと良かったです。
- ・考えさせられたり、気づかされたりですごく有益だったと思う。
- ・外国人とのかかわりあいは特別なことではなく、恐れずまず自分からの声かけが大切だと思いました。
- ・もう少し時間が欲しかった
- ・様々な活動やお話が聞けて良かったです
- ・最後の良いところ探しとても面白かったです。
- ・できれば他のテーブルの方、参加者を知りたかった
- ・人と人との関係がいつでも基本であると多文化共生に関わる心構えが新たになりました
- ・楽しく参加しているうちに様々なことを学びました
- ・たくさんの楽しく活き活きした事例を示して頂き解りやすくすぐにも実践に移してみたいと思うヒントを頂きました  
「BAUMTEST」「良いところ探し」も楽しかったです。是非やってみます。ありがとうございました。
- ・もっと具体的でテーマを絞って欲しかった。繰り返しワークショップがあれば良いと思う。
- ・時間がすごく足りない感じでした。

## 3. 本日の事業全体についての感想、今後期待する取り組み、また希望する講演者やテーマなどについて

- ・他団体との交流や課題の解決方法
- ・外国人は日本人からの声掛けを待っていることを知り今後はそのように心掛けたい
- ・とても良かったです。ありがとうございました。今後は、外国人あるいは異文化が日本社会に与えた積極的影響などをテーマとして講演会もあつたらいいと思います。
- ・札幌市においても多文化共生は求められているところです。プラザの事業としては重要な課題だと思いますので今後の一層の展開を期待します
- ・2時間あっという間でした。ありがとうございました。
- ・新しい発見や使えるようなアクティビティがあり大変参考になりました
- ・良かったです。なかなかお会いできない方々と会えましたし、いろいろ参考になるお話も伺えました。最後のグループの方々へのコメントを書くというのはびっくりしましたが面白かったです。
- ・講師の方の他分野の詳しい話が良かったです。もっとワークショップ(交流)の時間が多いと良かったです。
- ・日本語教育の現状についての知識が増えました。ありがとうございます。
- ・野上先生のお話でより深く知ることが出来て良かったですと思います。今後も継続して多文化共生についてこのような機会を設けて頂きたいと思います。
- ・昨年までのワークショップが縮小されたように思います。以前は自治体職員の方々も参加し色々な立場の方々と交流できたのでその積み上げをもとに発展を期待していたのですが残念です。今後、どのように多文化共生を進めていこうとしているのか、国際プラザの方向性がわかりにくいです。多文化共生推進プランが札幌市にもできるように考えることもワークショップで取り上げて欲しい。
- ・外国人からの見方。アジア/アフリカ人を中心として
- ・セミナーのチラシを見たときに内容が具体的にイメージしにくかったので参加の決め手になり難いなと思いました  
セミナーそのものが面白かっただけにもったいないと思います。
- ・これまでにいくつかのWSに参加させていただきましたが、1番楽しい内容でした。このようなお話をもっと多くの方に

聞いていただけると良いですね。

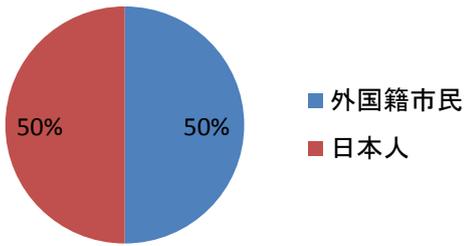
- ・実際に札幌で活動している人たちも参加できる事業もご紹介ください
- ・多文化の真ただ中に生活しておりますので大変興味深い話が多くあり勉強になりました。
- ・たくさんの資料を頂きましたがすべて日本語です。講師が特に大切と言った資料だけでも英語の用意があったら良いと思います。このアンケートも英語のものがあるでしょうか。同じグループ内に日本語を話せませんが漢字は分からないというお話を聞きました。
- ・久しぶりに勉強した気分です。引き続きこのショップに出席させていただきたいと思っています。

2012.10.31「藍染体験・交流会」参加者アンケートまとめ

回答 12名（13名中）

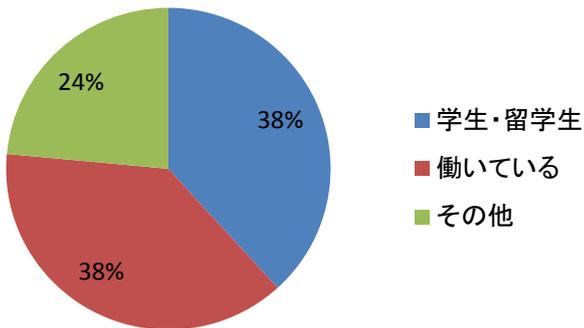
	1. 本日の感想を教えてください	2. 日本文化と日本語に対する親しみは深まりましたか？
①	藍染は、北海道の文化であることは知りませんでした。ずっと前からインディゴ色にとってもあこがれています。どうやって染めるのか分からなくて、今日は染め方まで教えてもらってうれしかったです。そして、自分自身で体験できてよかったです。ひとつの趣味が増えたかもしれません。	みなさんはとても親切でやさしく色々教えてもらってとても感謝しています。藍染というのは初めてでしたが自分でそめたものはキレイにできてうれしかったです。先生のおかげです。市民との楽しい時間を過ごすことができありがとうございます。
②英	今日のイベントは本当に楽しかったです。前から藍染には興味があったのでとても良い経験になりました。またこのようなイベントにぜひ参加したいです。	はい。このような全員が日本語を話す環境に置かれることはとても新鮮です。なぜなら、私の大学のプログラムでは全員が英語を話すからです。本当に藍染について学べて、日本文化に対し親しみも深まりました。
③英	日本の伝統文化についてより知れて楽しかったです。ここに参加できてとても良かったです。また、外国人をこの事業に参加させ日本語を学ばせることはとても良いアイデアです。	はい。私は日本語をうまく話せませんが、より日本語や文化に親しみを持つことができました。
④英	とても楽しかったです！スタッフのみなさんはとても優しくかったです。とても貴重な経験でした。	日本文化により近づけましたが、言語は近づけませんでした。
⑤	今日はとてもたのしかったです。自分でハンカチをつくったのはおもしろいです。ハンカチがきれいですから好きです。先生は優しいです。食べ物おいしいです。	はい。日本文化と日本語に対する親しみは深まりました。もっと日本文化と日本語を勉強したいです。
⑥	とても楽しかったです。ハンカチのもようは大好きです。はじめてハンカチを作りましたから忘れがたいです。みなさんありがとうございます。	はい。日本文化と日本語に対する親しみは深まりました。もっと日本文化と日本語について体験したいです。
⑦英	とても楽しい。	はい！ありがとうございます。
⑧	すごくうれしかったです。みんなは優しく丁寧な教えてくださいました。いい勉強になりました。もう1回参加したいと思いました。ありがとうございます。	この体験によって藍染の歴史と札幌の文化を深くわかるようになりました。本当にありがたいと思っています。
⑨	とても楽しかった	はい、深まったように感じました
⑩	非常に楽しいですが様々な知識を学びました	日本の文化が深まりました
⑪	楽しかったです。日本の伝統の藍染を体験できて本当にうれしかった。手作り物は綺麗です。	はい、ちょっとだけ(笑)
⑫	日本の伝統文化の代表である藍染が体験できてほんとうに楽しかったです。先生がたが丁寧に教えてくれてありがとうございます。	はい、深まりました。

札幌国際プラザバスツアー 参加者アンケート  
2012.11.23

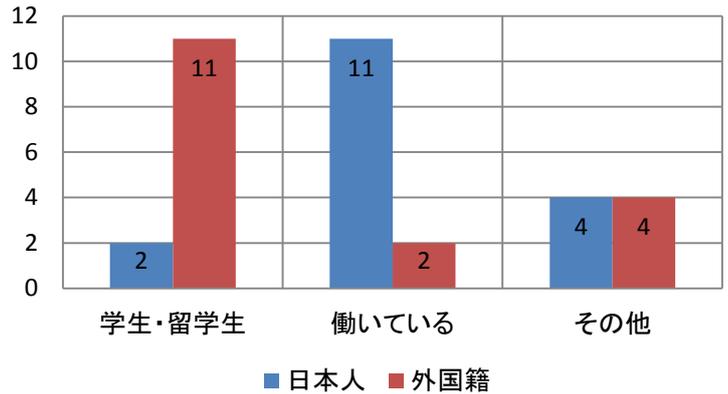


円グラフ・・・全体  
棒グラフ・・・日本人と外国籍の比較

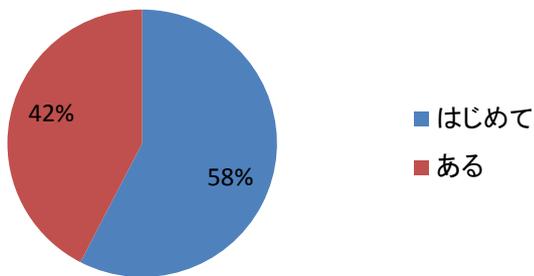
あなたに当てはまるもの



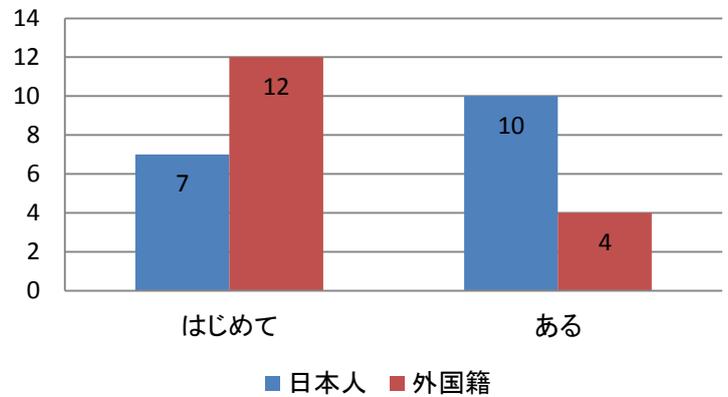
あなたに当てはまるもの



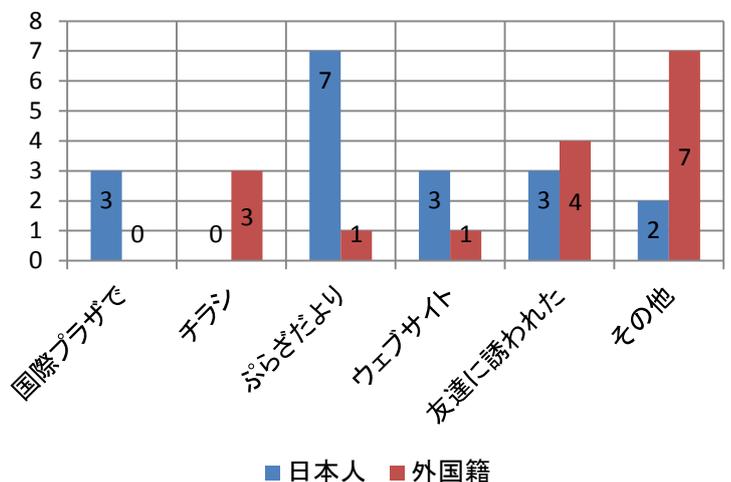
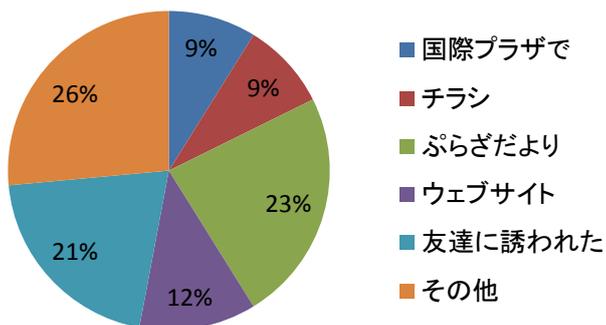
プラザイベントの参加経験



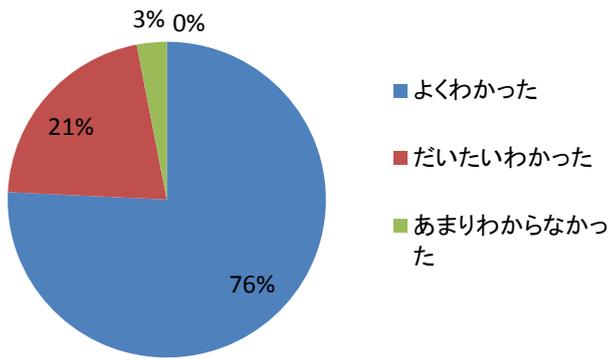
プラザイベントの参加経験



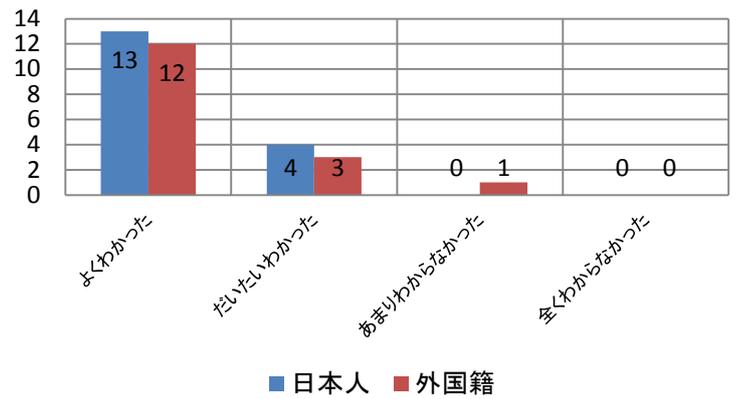
どのように知りましたか



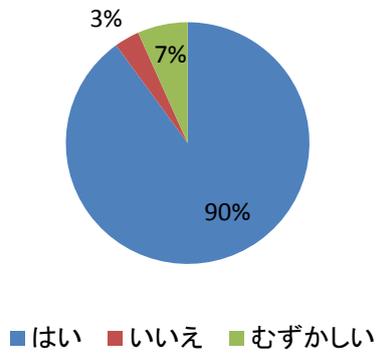
## 防災講座



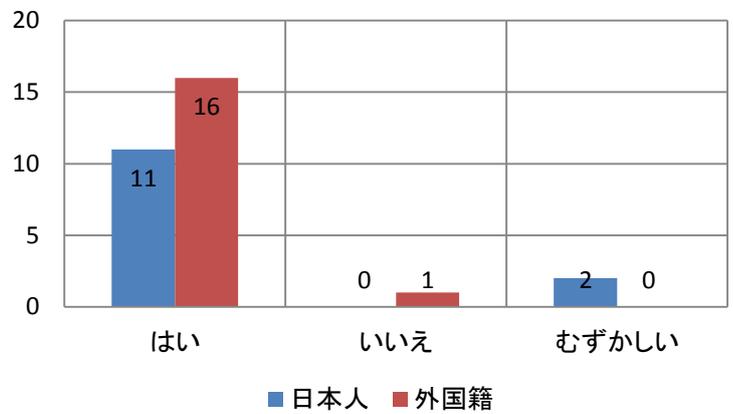
## 防災講座



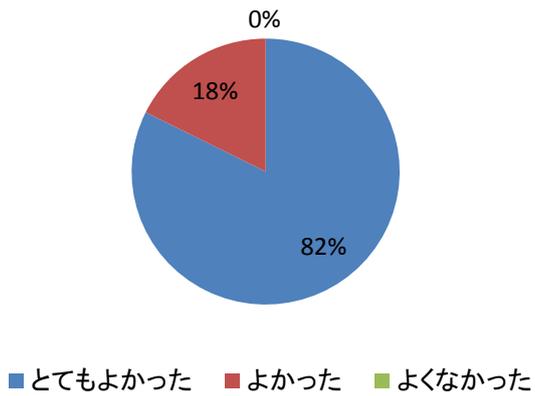
## やさしい日本語を使うとわかりやすい



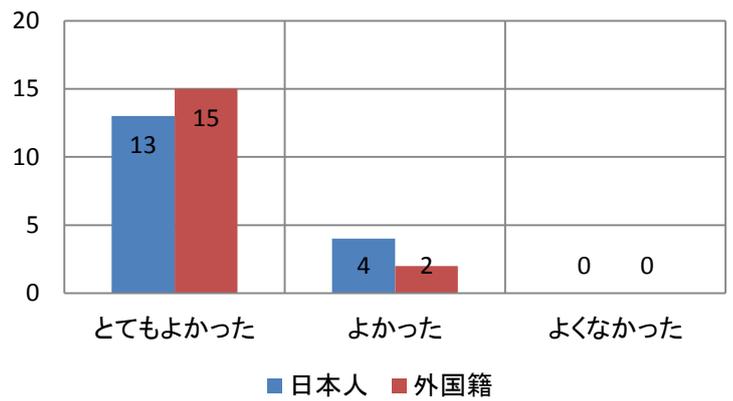
## やさしい日本語を使うとわかりやすい



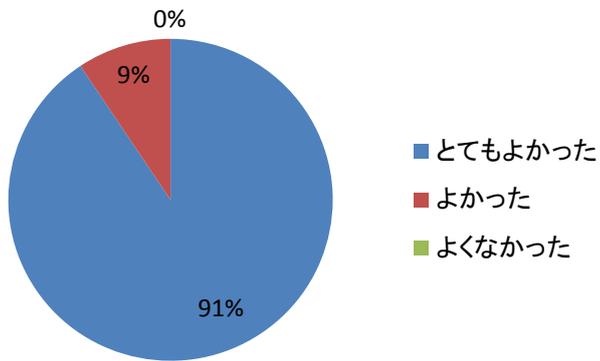
## 防災センター見学・体験



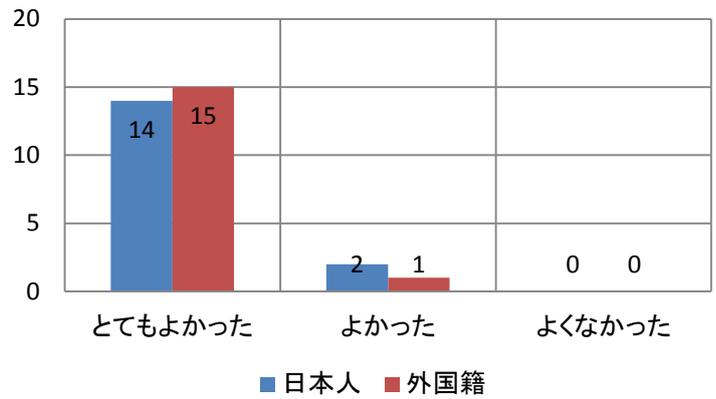
## 防災センター見学・体験



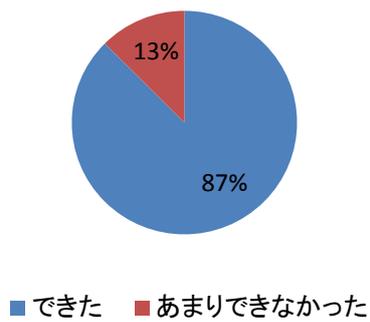
## カーリング体験



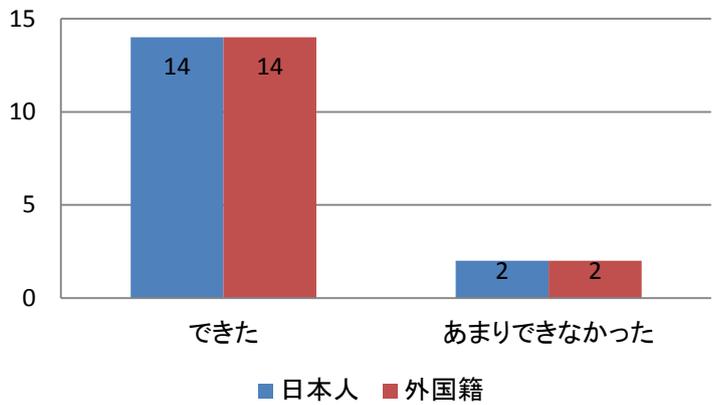
## カーリング体験



## たくさんの人と話すことができた



## たくさんの人と話すことができた



7. 日本語がわからないと、災害時に、どのようなことが困ると思われましたか？

- 日
- ・日本人なので困った人を助けてあげたいです。
  - ・連絡の行き違いで逃げ遅れることもあるのかもと思った。
  - ・日本人向けの日本語だと難しく理解できず非難が遅れそうだと思いました。
  - ・逃げるところが分からない。
  - ・言葉の壁があると思った。
  - ・避難所の場所
  - ・メディアの中身が理解できない。助けを求められない。
  - ・コミュニケーションに手間取っている間に危険が迫ってきってしまう。
  - ・まず何が起こったのかわからないと不安でパニックになると思いました。
  - ・何が起きているのかわからない
- 外
- ・Great difficulty. Because we are not acustom to these situations. Some new things were there to learn. (とても困難。私達はそういった状況に慣れていないので。新しく学ぶべきことがあった。)
  - ・安全な避難方法があっても理解できません。
  - ・They may feel difficult to understand at the alarm.(避難信号を理解するのが難しいのでは)
  - ・What to do. What number to call. Instractions on Japanese. (何をするか、どこに電話するか、日本語での指示(がわからない))
  - ・I couldn't SOS for myself. (自分のために助けを呼ぶことができなかった)
  - ・ない
  - ・けがをしたとき、避難方法のとき
  - ・Possible confusion when communication with others.(他の人と連絡を取る時に混乱が生じる可能性)
  - ・「助ける」という言葉も言えない時
  - ・たすけをもらえない。ほきゆうにこんなん。
  - ・misunderstood(誤解される)
  - ・Connect for others to save it difficulty.(困難を解決するために誰かとつながりをもつ)

10.今日の感想を聞かせてください。

- 日
- ・カーリング体験がとても面白かったです。
  - ・面白い企画でした。イベントを通して外国人とのコミュニケーションがスムーズにできました。
  - ・初めて参加したけど、とても楽しかった。また参加したいと思った。
  - ・いろんな国の方と話せてとても良かった。カーリング体験がとてもいい企画だと思いました。
  - ・防災訓練も含めてすごく楽しかったです。ありがとうございます。
  - ・カーリングが一番楽しかった。
  - ・交流もしながら、防災について学べたりカーリングも楽しめて良かったです。
  - ・とても勉強になりました。
  - ・防災もカーリングも良かったです。
  - ・大変良かった
  - ・防災体験も一度してみたかったので今日初めてできて良かったです。カーリングも人生初でとても楽しめました。意外と難しいとわかりました。色々な人と話せたのもすごく良かったです。
  - ・シマ先生のお話も楽しくわかりやすく、他の参加者と打ち解けることが出来ました。防災センターも初めての体験でためになりました。カーリングも先生(吉沢さん)の説明がとても分かりやすかったです。こういったイベントで外国の方と交流できるのは楽しく双方にとっても良いと思います。最後に、スタッフの皆様丁寧に明るく接してくださいましてありがとうございます。
  - ・とても楽しかった。28cm以上の靴の人が何人かいたので、日本語だけでなく、英語の案内文を事前に配布して特に28cm以上のサイズの方はスニーカーを持ってくると良いと思います。
  - ・楽しかったです。いろんな国の方が居てとても良かったです。
  - ・カーリングがとても楽しかったです。英語を勉強しようという気になりました。ありがとうございます。
- 外
- ・It was very enjoyable. Had a great great fun. I will never miss such opportunities. Interpreters are very helpful. Without them this tour could not be that enjoyable. (とても楽しめた。ものすごく楽しかった！今後もこういった機会を見逃さないようにしたい。通訳がとても親切だった。彼らがいなければ、こんなに楽しいツアーにならなかったと思う。)
  - ・いろいろ勉強になりました。友達も作りました。ありがとうございます。
  - ・Great! Thank you! またさんかしたい！
  - ・I will share my experience with friends on Facebook!(体験をフェイスブックで友人に共有します)
  - ・I had a lot of fun, learned new things. First time trying curling was fun. (とても楽しかった。新しいことを学んだ。初めてカーリングを体験して楽しかった。)
  - ・とても楽しかったです。たくさんの人と話して、日本語を使って、たのしいです。
  - ・日本人はやさしい。今日は楽しかった。
  - ・災害がある時に避難方法がよく勉強になりました。カーリング体験が楽しかったです！
  - ・楽しかったです。
  - ・親切な先生とStaff,有難うございます。もっと長いCurlingがほしい

- It was great! I met many nice people and had a wonderful time. The only points would be
  - ①A little difficult to understand parts of the seminar.
  - ②I wish we had played a proper Curling game.:
 (とても楽しかったです。たくさんの良い人たちと出会えて、素晴らしい時間を過ごしました。改善点としては
  - ①セミナーは一部理解するのが少し難しい部分があった。②ちゃんとカーリングの試合をしたかった。
- とてもよかったです。時間がみじかかったです。
- Awsome(素晴らしい)
- とてもうれしかったです。いい勉強になりました。

11.これから国際プラザでやってほしいイベントがあれば書いてください。

- 日
- 体験系のものをまたやってほしい。
  - 今回のように外国人と気軽に交流できる企画をしてください。
  - お正月パーティー
  - 何でもO.K.
  - 外国人とのフリートーク
  - 外国人とのキャンプやスキー体験など
  - 日常行けない場所の見学
  - 今日のような色々な国の人と楽しめるイベント。
  - 同様の、ワークショップ、ゲーム形式のイベント。
  - このようなイベント。みんなでダンス(よさこいなど)
  - いろいろな国の料理教室
- 外
- Different Competitios are encouraged. With this we can have fun & interaction with many people.
  - Food Competition or mini competitions.
  - (異文化コンテストをお勧めします。多くの人と楽しめて勉強になるから。食べものコンテスト、ミニコンテストなど)
  - Communication events,cooking, dancing (交流イベント。料理、ダンス)
  - Ski!
  - More events that explores around Sapporo.(札幌の周辺の楽しみを発見するイベントをもっと)
  - なんでもいいです。
  - 和服と茶道の体験を参加したい。
  - 茶道、書道、剣道、弓道、華道、ボーリングを体験したいです。
  - スキーのイベントが参加したい
  - Soup Curry料理を作る。ダンスと楽器をplay.
  - Similor events introducing people to activities in Hokkaido and teaching some useful Japanese would be great!
  - (今回と同じような、北海道のアクティビティを紹介したり、役に立つ日本語を教えたりするイベントが良い)
  - 外国人とか日本人でも、友達の紹介とか
  - Cooking
  - もう1回のカーリング、和服、日本茶、スキーなどの体験を参加したいです。
  - Communicate with Japanese and other foreigners (日本人や他の外国人とつながりをもつ)

## 母子保健セミナー アンケート集計 (12/9)

12月9日(日) 当日参加者6組9名 内2組2名より回答

母子保健セミナー「さっぽろで子育てを楽しもう!～赤ちゃんの保健と子育て支援サービスについて知ろう～」にお越しいただき、ありがとうございます。今後のより良い事業の実施に向けてアンケートにご協力をお願い申し上げます。

1. あなたの国籍を教えてください。
  - ・ナイジェリア
  - ・モンゴル
  
2. あなたが十分に理解し話せる言語は何ですか？
  - ・英語(2名)
  
3. セミナーのことはどこで知りましたか？
  - ① プラザホームページ …1組
  - ② チラシ(at: )
  - ③ 友人から
  - ④ 職場・学校で( )
  - ⑤ メールマガジン
  - ⑥ その他…1組(SEMI)
  
4. これまで、(財)札幌国際プラザの3F交流サロンを利用したことがありますか。
  - ① Yes ある No ない…2組
  
5. 本日のセミナーに参加された目的は何ですか？(複数回答可)
  - ① 子育て全般に興味があるため
  - ② 子供の保健に興味があるため…2組
  - ③ 保育などの情報に興味があるため
  - ④ 子育てをする他の親と知り合いたかったから
  - ⑤ その他( )
  
6. 参加されての感想をお聞かせください。
  - ① Great 大変満足…2組
  - ② Good 満足
  - ③ So-so 不満
  - ④ Dissatisfied 大変不満
  
7. 上記6の質問で③、④と答えた方に伺います。理由をお聞かせください。  
( )
  
8. 日本で生活して一番困ったことは何ですか？困ったときは誰に相談していますか？  
困ったこと：託児…1組 誰に相談：保健所等…1組

9. 札幌国際プラザでは、母子保健セミナー以外にも外国籍市民のために以下の事業を行っています。参加したい行事はありますか？

- ①シティサロン                      ②子どもサロン…1組
- ③法律相談                            ④レッツトーク日本語

10. 他にどのようなイベントやセミナーがあれば参加したいですか？

回答なし

11. 今後このようなセミナーやイベントを開催する際、他の外国籍のご両親のために経験者として参加をお願いしてもよろしければ、お名前とメールアドレスをお知らせください。

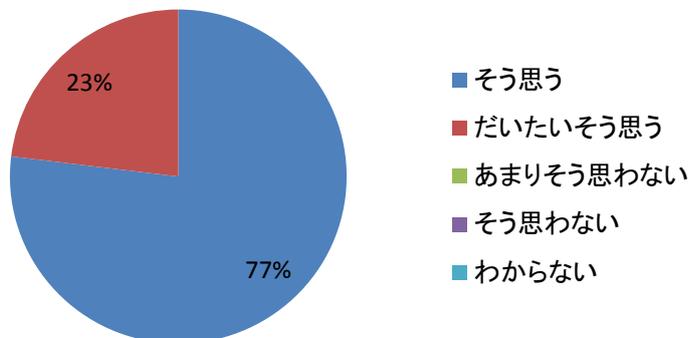
参加者2組にご記入いただきました。いただいた個人情報は別に保管します。

12. その他、参加しての感想・意見ををお願いします。

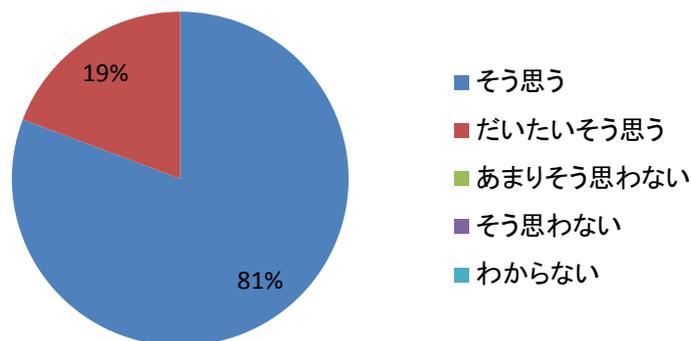
回答なし

多文化共生の 担い手ワークショップー日本語教育から考える②ー  
平成24年12月16日(日)13:00-16:30 アンケート集計結果

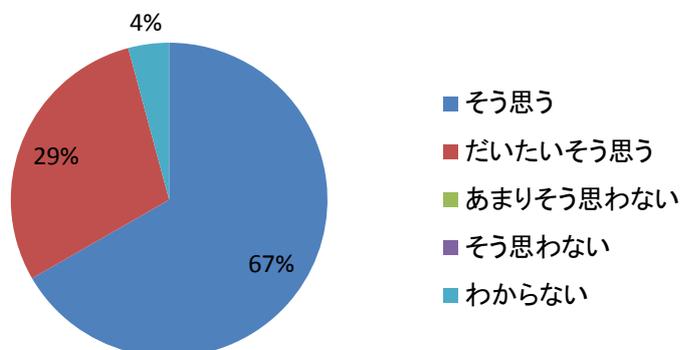
有意義な講演内容であった



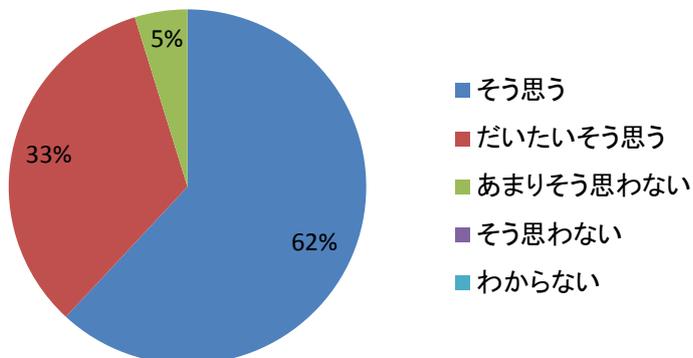
有意義な事例発表であった



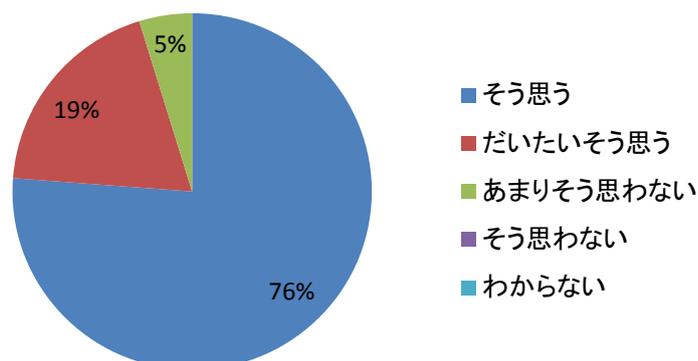
外国につながる子供の将来を見据えた  
視点について、関心が高まったり、新た  
な発見があった



## 有意義なワークショップとなった



## 他分野・他団体との連携について関心が高まったり新たな発見があった



### 1. 第1部 講演、第2部 事例発表について

- ・体験談、たくさん聞きたいです。
- ・松本先生の話がとてもためになりました。
- ・講演はすっきりまとまっていて、わかりやすく興味深く伺いました。事例の紹介で当事者本人のことばが聞けたのは収穫でした。松本先生が各事例についてアドバイスされた内容が勉強になりました。
- ・松本先生の講演は、愛知県の事例、札幌の事例を織り交ぜてお話していただき、とても参加になりました。現場の声もあわせてお聞きできて有意義でした。事例発表もとても具体的なお話が聞けて有意義でした。
- ・大変勉強になりました。ただ、札幌市は外国人数が比較的に少ないためか、事例対処法の認知度が少ない様に思われました。
- ・支援に参考になる事例がたくさんあり、実行していきたい
- ・支援を必要とする方の状況について詳しく理解することが支援の第一歩であることを改めて感じました。
- ・今だけでなく子供たちのもと先のことまでを見て対応する必要性を認識しました
- ・具体的な例を挙げてお話を下さったのでわかりやすかったです。外国人の事例(インタビュー)も興味深く拝見しました。
- ・ご本人からの事例発表で、本人の口から思いをいろいろ聞けたのが良かったです。
- ・各外国籍の皆さんの事例発表は大変参考になりました。
- ・実際の在日学生さん(元)の声を聴くことが出来て、貴重な時間となりました。

- ・事例、良い環境で学習した人たちが多かった。
- ・具体的な例を聞いて興味深かった。もっと詳しい内容を聞きたかった。
- ・外国人児童の学校受入の現状と課題が良くわかりました。又、3名の事例紹介VTRは大変参考勉強になりました。
- ・それぞれの都市によって住んでいる外国人の方の移住目的が違うことが良くわかりました。事例で紹介された人たちはとても恵まれた人たちだと思いました。
- ・すべてが勉強になりました。時に日常会話のできる子供の要注意には、よく子供を見ている視点を大事にしたいと思いました。
- ・松本先生が大きな問題を簡潔にまとめてくださり、札幌の状況にも光を当てて頂いたのでもわかりやすかったです。事例も参考になる点が多く、良い情報が得られました。
- ・外国籍の子供たちの状況について大変多くのことを学べた。知らないこと、また知っておくべきことへの認識が高くなり、もっと知識や理解を深めたいと思った。特に母語の維持の重要性については私自身の子供の体験から(12年海外で育ちました)大いに反省を持ちつつ認識を新たにしました。
- ・今回の事例発表は恵まれた方達だと思いますが、学校の先生、友人などのサポートがあったからこそと思いました。3番目の方が「外国人と思わず、同じ日本で暮らす社会の一員と考えている」という思いが大事なことだと思います。
- ・担い手WSのプログラム構成、毎回「言葉」「日本語教育」からみえる色々な問題につながりとても良かったと思います。次回も楽しみにしています。ただし、良い事例ばかりではないことも紹介してほしいです。
- ・文化省がたくさん有益なガイドラインを作成していることに感銘を受けた。(講演) それぞれの方が学校の先生から多くのサポートを受けたとのことで素晴らしいと思った。

## 2. 第2部 ワークショップについて

- ・グループ分けを工夫してくださったとお聞きして配慮に感謝いたします。色々な背景を持った方と、お話しして色々な課題について意見を出し合えてとても有意義でした。ありがとうございます。
- ・色々な事例を共有することによって、解決策をどのように見出していかわかりました。
- ・色々な体験の発表を聞くことが出来て参考になった。
- ・事例があると、具体的な対応策を考えることができるので今後はそのようなケースが起きた時、即対応できるので非常に良かったです。より多くの事例について話をしたかったです。
- ・それぞれの活動の経験のお話をお聞きする良い機会となりました。
- ・色々な団体の活動を知る機会となり、良かったです。グループでの話し合いも時間さえ許せばもっと深めていきたいと思いました。
- ・色々なお話を聞いて有意義でした。
- ・様々な立場の人のそれぞれの問題を聞くことが出来た。
- ・現場で働いている人たちの話が聞いて大変ためになった。もっといろいろお話ししたかった。
- ・様々な立場の方のお話を聞くことが出来て大変良かったです。このような経験を今後も多く持っていきたいと思います。ワークショップは有意義でしたが議論すべきテーマやゴールが少々わかりづらかったので議論がやや散漫になってしまったと思います。
- ・色々な人たちとネットワークを作ることはとても大切だと思います。
- ・出席者同士のグループワークは情報交換の場として良いけれど、言いつばなしになることも多いです。毎回ワークショップに参加して思うのは、色々な人が「有機的につながる」ということが簡単なことではないという点です。日々の生活とボランティア活動で精一杯で何か新しい連携活動をする場合はプラザさんなどの仲介支援が必要だと思います。松本先生がまとめて助言して下さった「進路を考える会」が実現できれば素晴らしいと思います。
- ・「日本語教育」を巡る様々な活動を知るととても良い機会でした。現在の自分の立場でできることを改めて考えてより良い活動とつなげていきたい。
- ・最初からグループ分けのおかげで開始前からいろいろお話しすることができワークショップでも話しやすくなりました。今まで参加して顔を知っていても直接話したことがないということが多かったので、今日は大変良かったです。
- ・個人的にはごく一部の方が話を続けて良く話すことができませんでした。
- ・知らなかったことをたくさん知りました。(札幌日本語こどもクラブの活動など)とても有意義でした。

## 3. 本日の事業全体についての感想、今後期待する取組、また希望する講演者やテーマなどについて

- ・行政担当の方がもっと参加してくれれば改善につながると思うのですが。

- ・子ども向けの日本語教育にはすごく興味があるので、また機会があったら参加したいと思います。
- ・日本語教師の養成に通っている途中なので、興味深い内容でしたがまだ難しいというか、私のレベルでは早い話かなとも感じたのでまた機会があったら改めてきたいと思います。
- ・子供時代に日本語教育を受ける大変さを聞き、地域での支援がいかに彼らにとって大切な助けとなるかわかりました。また機会がある時は講演会に参加したいと思います。
- ・札幌の特性は活かせば極めて能率的に成果が得られそうな気がしました。
- ・外国人の生活者の実体験の発表がさらに多くなることを希望いたします。
- ・色々な意見や困っていることや事例がたくさん発表されたのでこれをまとめて行政に取り上げていくようになることを期待します。
- ・本日は支援を受けた人の事例報告ではありましたが、次回は現に支援を受けている生徒のインタビューがあるといいかと思えます。その生徒の成長を見ることが出来ますし、支援のつながりをその生徒からもわかることができるかと思えます。本日は本当に実り多い研修会でした。ありがとうございました。
- ・有意義でいいお話をたくさん伺えました。個人的に日本で育った外国籍市民のアイデンティティ(自分の国籍について)や、給食(特にイスラム教のお子さん)指導等も気になりました。
- ・在日外国人生徒の進路問題について話し合いや事例発表を聞いてみたいです。
- ・1部と2部の間に休みを入れて欲しかった。
- ・先生が最後におっしゃっていた通り、このような機会を定期的に続けていくべきだと思います。札幌の国際文化交流や文化発信といったテーマも一度やって頂ければと思います。
- ・次回も参加したいと思います。
- ・今後も参加したいお思いますし、先生のおっしゃった定期的に集まって学習することを希望します。
- ・本日はワークショップに参加させていただきましてありがとうございました。ワークショップの趣旨について1つ疑問に感じましたのでお尋ねいたします。「多文化共生の担い手」をどの範囲に想定しているのでしょうか。私はボランティアとして学習支援活動を出る範囲で行っていますが、限界を感じることも大変多いです。ボランティアとして担える部分は喜んで担いたいと思いますが、そのためには行政が担うべき役割を果たして頂くことが特に子供の日本語教育にとっては必要なことだと思っております。今日のワークショップには教育委員会からの出席がどうしてなかったのか残念です。次回のワークショップでは今年度のまとめとなるかと思えますが一歩でも進んで成果がある物となってほしいです。ワークショップで賑やかに議論が盛り上がることと、現実の問題、困難を抱えた外国人居住者の現状に距離を感じる事の無いように願っています。
- ・充実していました。
- ・今回初めて参加しました。とても興味があるワークショップだったのでとても勉強になりました。また、参加したいです。現在は未だ日本語教育等には携わってはいませんが、将来資格を取るなどして「多文化共生の担い手」として携わっていきたくらいなと思いました。今日はありがとうございました。
- ・教育委員会又、学校の先生などにもこのようなお話を聞いていただけると良いなと思いました。
- ・外国の背景を持つ子供たちへの日本語支援についてほとんど知識がなかったので、とても勉強になりました。やはり札幌は留学生が多いという土地柄だけに特殊なのかなあとも思いました。滞在の短い子供たち(2、3年後には母国に帰る)への日本語、学校教育のあり方も検討の余地があるのかなと個人的には思いました。

## 外国人のための離乳食・幼児食セミナー アンケート集計 (1/17)

当日参加者6組13名 (6組より回答有り)

外国人のための離乳食・幼児食セミナーにお越しいただき、ありがとうございます。今後のより良い事業の実施に向けてアンケートにご協力をお願い申し上げます。

1. あなたの国籍を教えてください。

- ・マダガスカル
- ・タイ
- ・エチオピア
- ・アイルランド
- ・アメリカ
- ・ロシア

2. セミナーのことはどこで知りましたか？

- ① プラザホームページ ② チラシ … 2組
- ③ 友人から ④ 職場・学校で( )
- ⑤ メールマガジン… 2組 ⑥ 病院で
- ⑦ その他 (SEMI… 2組 )

3. 本日のセミナーに参加された目的は何ですか？ (複数回答可)

- ① 子育て全般に興味があるため… 4組
- ② 子どもの食事に興味があるため… 2組
- ③ 保育などの情報に興味があるため… 2組
- ④ 子育てをする他の親と知り合いたかったから… 3組
- ⑤ その他 (どうやって赤ちゃんにご飯を食べさせるか… 1組)

4. 参加されての感想をお聞かせください。

- ③ 大変満足… 5組 ② 満足… 1組
- ③ 不満 ④ 大変不満

裏面もあります

5. 上記4の質問で③、④と答えた方に伺います。理由をお聞かせください。

( ②と答えた方…大変わかりやすかった )

6. これまで、シティ・サロン@国際プラザに参加したことがありますか？

- ① ある…1組      ② シティサロンを知らない      ③ シティサロンを知っているが  
参加したことはない…1組

7. これまで、(公財)札幌国際プラザの3F交流サロンを利用したことがありますか。

- ① ある…5組(利用の目的は: 情報をもらうため、レッツトークイングリッシュのボランティアとして、英文マップなど)  
② ない…1組

8. 子育てをする日本人との交流イベントがあれば参加したいですか？

- ① 参加したい…4組      ② 参加したくない      ③ どちらともいえない…2組

9. 他にどのようなイベントやセミナーがあれば参加したいですか？

- ・寝てほしい時に赤ちゃんを寝かしつける方法
- ・子供のしつけ

10. 今後このようなセミナーやイベントを開催する際、他の外国籍のご両親のために経験者と

して参加をお願いしてもよろしければ、お名前とメールアドレスをお知らせください。

…3組回答有り

Name お名前:

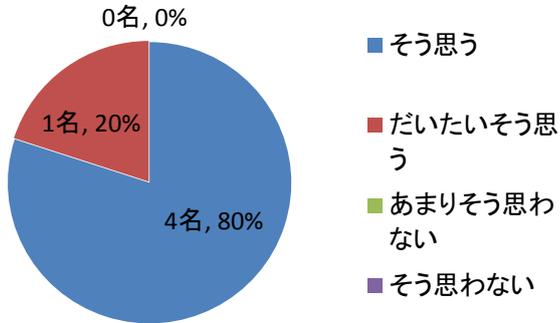
Email メールアドレス:

11. その他、参加しての感想・意見をお願いします。

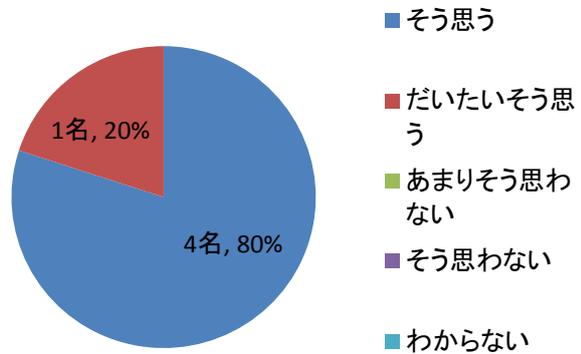
Thank you for your time!

災害図上訓練(DIG)を通して多文化防災を考える  
平成25年2月2日(土)

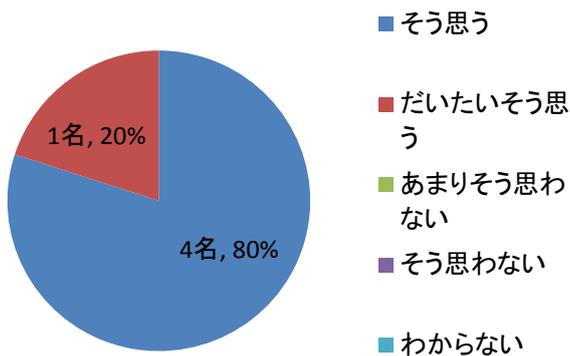
多文化共生の観点から考える防災について、理解が深まったり、新たな発見があった。



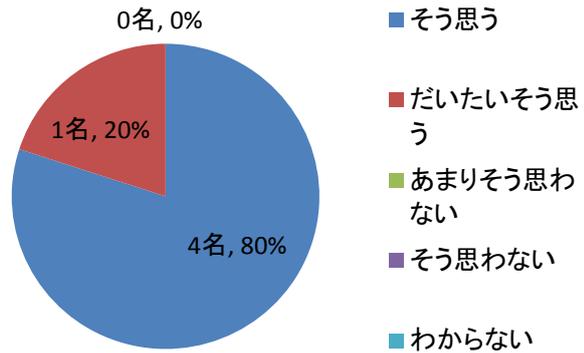
有意義な講演だった



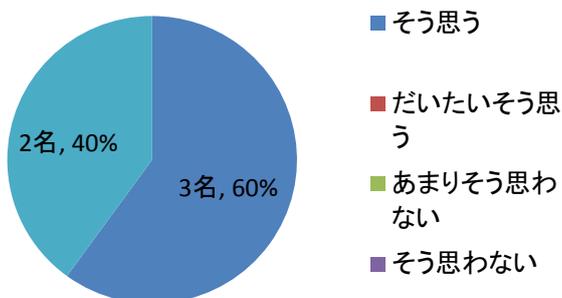
有意義な講演だった



有意義な訓練だった

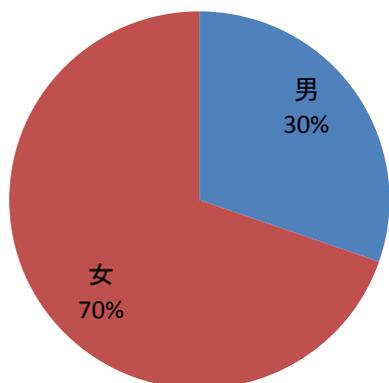


外国人参加者との会話を通じて、共通言語としての日本語を意識することができた。

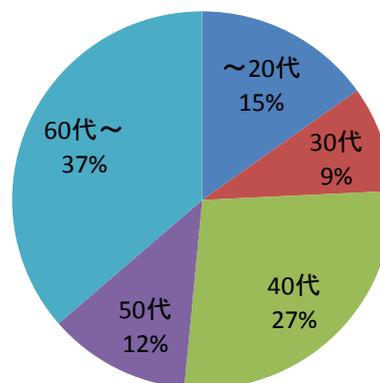


# 多文化共生シンポジウム アンケート集計 (33名回答/66名出席)

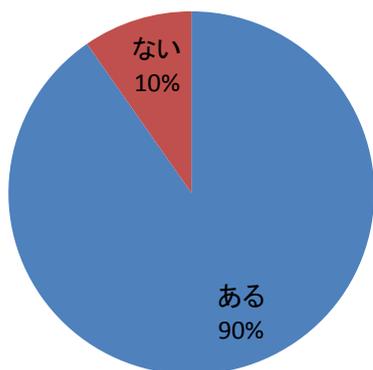
## 性別



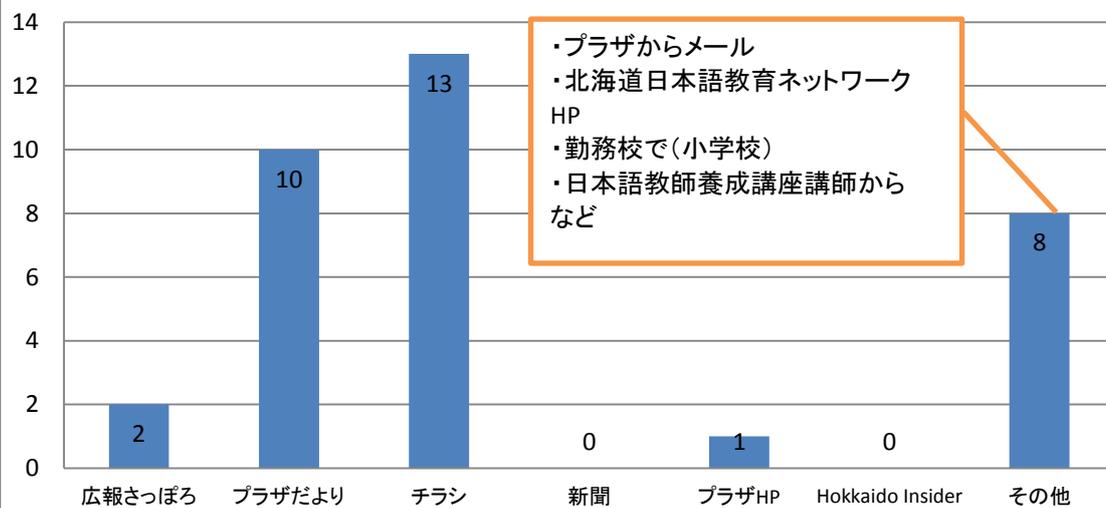
## 年齢

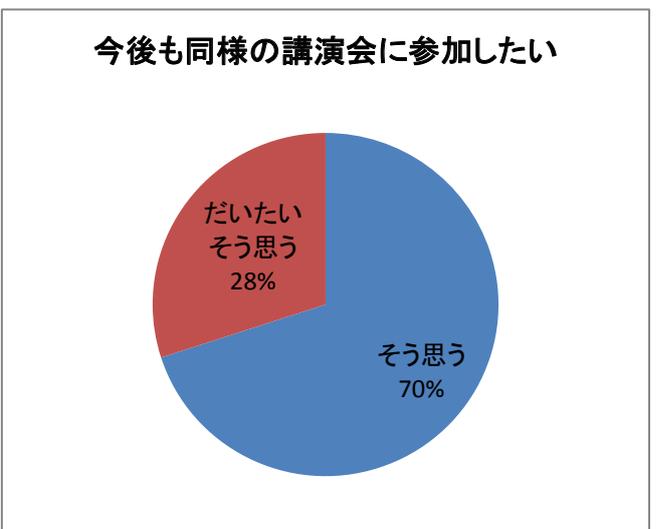
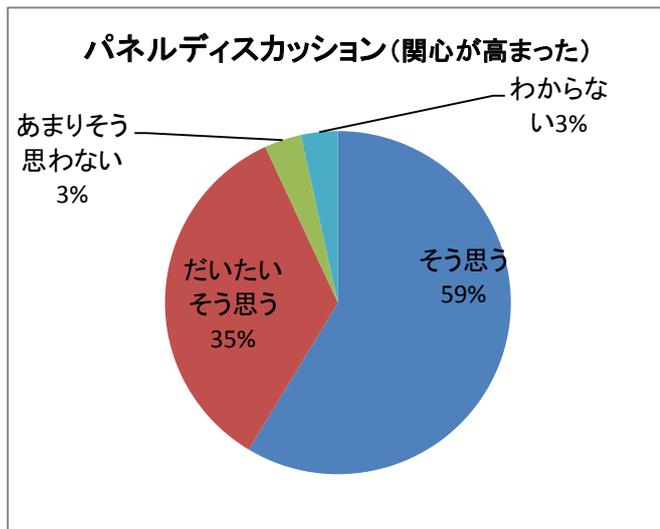
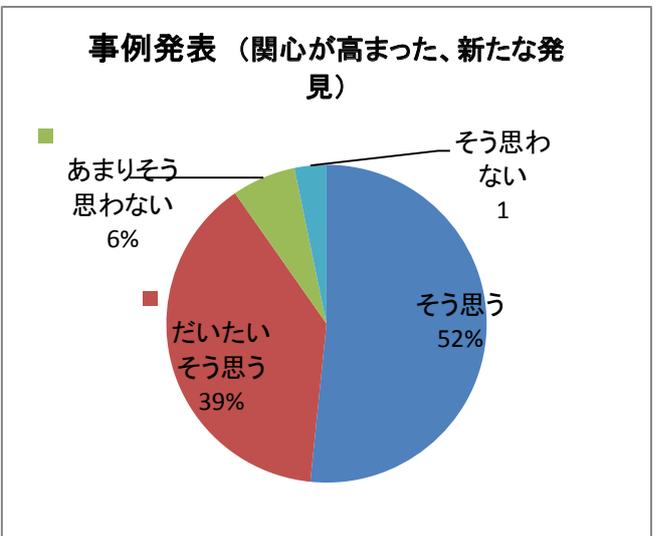
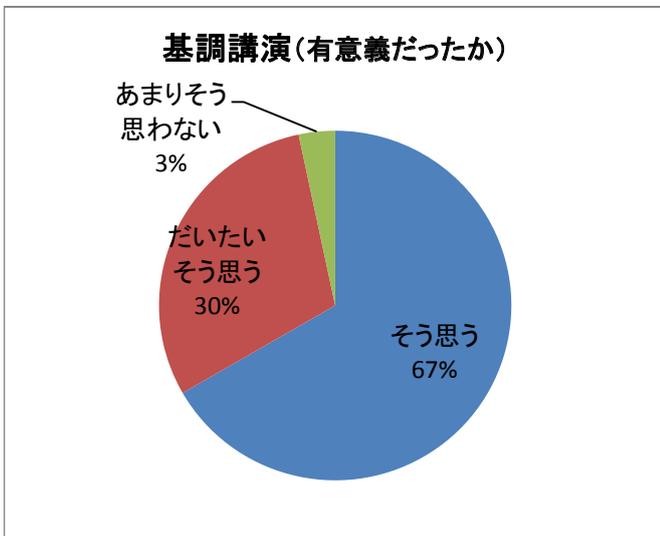
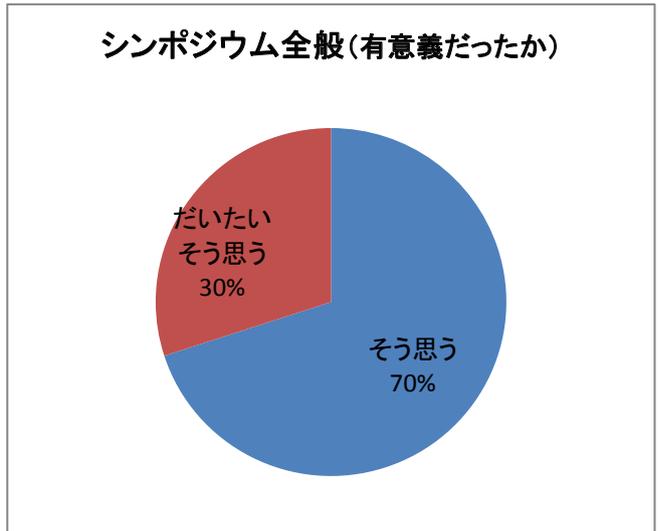
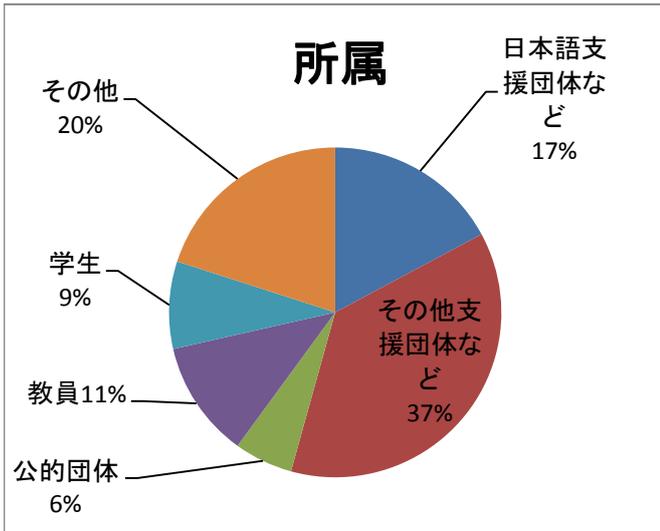


## プラザの利用経験



## シンポジウムをどのようにして知ったか





●シンポジウムに参加した理由(複数回答)

- ・内容(日本語支援)に興味があった 6
- ・内容(多文化共生)に興味があった 5
- ・北海道、札幌の多文化共生の現状に興味があった 3
- ・日本語支援の活動、業務をしている 2
- ・多文化共生の活動、業務をしている 3
- ・今後、地域で担い手として関わるための情報収集 3
- ・日本語教師資格保有、日本語教師養成講座を受講中 3
- ・自分自身も海外に暮らしている、暮らしていた 2
- ・家族構成も妻が外国人。今後妻が出産し、ここで暮らしていくことによって必ず直面する問題なので
- ・多文化共生の担い手WS(12/16)に参加して、松本先生の講演が大変良かったので
- ・前回のシンポジウムに参加
- ・友人に誘われて

●意見、感想、今後期待する取り組み

- ・国際化戦略プランが進んでいるとお話でしたが、多文化共生に焦点があてられているわけではなく、国際ビジネス観光など色々な観点に分散しているように思います。  
多文化共生を中心にした多文化共生推進プランの制定に進んでいくためには、何が必要なのか?と思います。  
国際プラザが目標を明確に掲げて進めていって下さったら、参加者も協働していけるとと思います。[日本語支援ボラ]
- ・もっと多文化共生という言葉が浸透すると思います。[所属無し]
- ・とても良かったです。資料も見やすく、URLなどもつけて下さったので帰ったら読んでみようと思います[その他ボラ]
- ・私の所属する北翔大学国際交流室でも、大学としてもっと地域に参画できるよう検討しております。  
何か機会がございましたら、よろしく願います。[教員(大学)]
- ・仲間うちで名前を呼んで指名して質問しているのはいかがかと思う。もっと広がりを持たせ、国際情報高校などにも来てもらう工夫が必要[記載なし] ※途中退出
- ・ロシアから帰国した兄弟の映像が事例として良いと思うが、両親の様子を知れるとさらに良かった[その他団体]
- ・言葉が通じぬ大変さをしみじみと感じた。日本語学習のボランティアを機会があれば行きたい。  
国際プラザが日本語ボランティアに関わられる部署があれば良いと思います。[記載なし]
- ・今回のシンポジウム、とても有意義な内容でした。松本先生だけでなく野山氏の講演、パネルディスカッションの方々のお話大変楽しかったです。またぜひ機会があれば参加したいと思いました。ありがとうございました[記載なし]
- ・多文化共生社会の問題点の理解を深めた。教育者と学習者の関係の変化は興味深いものがあった。[日本語ボラ]
- ・「多文化共生」という使われる意義がよくわかった。[その他ボラ(震災)]

- ・ボランティアや外国人と関わった体験談を聞いて感動しましたし、大変興味を持ちました。外国人住民の体験談映像②、③は休憩に入ってしまったので映像の音が聞こえづらく残念でした。[その他(日本語教師受講中)]
- ・とても参考になるお話が沢山ありました。楽しいひと時でありました。今後も参加したいと思っています[その他ボラ]
- ・地域での具体的な活動を知ることができとても良かった。札幌以外の多文化共生の事例に触れ、視野が広がった。日本語支援ボラをしています、今後役に立っていきます。共に学ぶを目指しています。[日本語ボラ]
- ・とても勉強になりました。子どもたちにとっては貴重な成長の時代、有意義な時代となるよう援助が必要というお話が心に残りました。できる事は何か、考えていこうと思いました。ありがとうございます。[教員(小学校)]
- ・札幌は集住都市ではないので、市民の中にホームステイや外国語ボランティア等の経験からある程度スキルを持った人材がいるので、札幌スタイとして新しい方法を考えていくといいと思う。それには、小さい地域ごとの発展が必要。国際プラザはそのインキュベーターとしての役割を發揮して欲しいと思います。[教員(小学校)、その他ボラ]
- ・興味深い内容で、松本先生、野山先生をはじめいろいろ準備などで大変だったであろう国際プラザのスタッフにも感謝。ただ、1時から5時近くまでの開催はちょっと長すぎるようにも思いました。内容を精査していけば3時間程度でもおさまったのではないのでしょうか。そうすればもっと多くの人が参加できたように思います。[日本語ボラ]
- ・今後どのような取り組みを進めるか考える参考になりました。素晴らしい事業だったと思います。[その他団体]
- ・教育現場にいた時は、いろいろな子どもとのふれ合いがあったので幅広い考え方を持てたが、最近はチャンスが少ないので、もう少し機会があれば良いと思うこの頃です。[教員(小学校)]
- ・野山さんからたくさんのお褒めの言葉がありました。これからのプラザの活動がその言葉に後押しされてもっともっと発展していくことを願っています。平成25年事業に期待しています。[その他ボラ]
- ・大変勉強になりました。大学での研究に本日のお話を活かしたいと思います。[学生]
- ・何かの形で子どもさんに日本語で接するチャンスがあれば参加したいと思います。[その他ボラ]
- ・とても貴重なご意見、経験談、今後の施策等、拝聴出来て勉強になりました。今後も色々な企画を楽しみに[学生]
- ・「多文化」に係わる「子供」の位置づけが曖昧だったと思う。[その他]
- ・中国の大学で日本語を教えておりますが、北海道は中国人にとってあこがれの地です。双方をつなぐ交流ができればと考えております。今後も情報を伝えて頂きたいと思います。[その他]
- ・松本一子氏の母語を確立することの重要性(中途半端にならない為に)と、本人が毎日かかえる生活に必要な日本語習得を優先的に考えるべきではないかと考えると、氏の意見に矛盾を持ちました。年齢の低い時にこそ言語の定着が早いと言われることも理解が難しい。[日本語ボラ、その他ボラ]

# 札幌国際プラザ「多文化共生コミュニティ形成のための日本語教育事業」(事業イメージ図)

目的:子育てや災害時など、住民同士が言葉の壁を越えて助けあう多文化共生コミュニティをつくるために、外国人住民への日本語教育を充実させるだけでなく、日本人に対しても日本語教育の重要性の理解を深めるとともに、支援する担い手同士の連携を促進する。

## 運営委員会

・事業全体の方針を決定

・事業運営への助言

《運営委員》

阿部 仁美  
(北海道日本語教育ネットワーク 代表)

神谷 順子  
(北海学園大学人文学部 非常勤講師)

米森 宏子  
(札幌市総務局国際部 交流課長)

大道 弘孝  
(札幌市教育委員会 学校教育部 指導主事)

後藤 道  
(公益財団法人札幌国際プラザ 参事)

## 担い手同士の連携を目指す取組

**取組1「連絡会議の設置」** 支援団体の連携、情報交換の場。研修会の開催。

《目的》  
外国人が日本で安心して生活する環境づくりを目的に、日本語教育をはじめとする幅広い分野の担い手が、それぞれの得意分野を活かしながら連携する。

《参加団体(予定)》  
・日本語ボランティア団体 ・多文化共生ボランティア団体 ・外国人コミュニティ支援団体  
・日本語学校 ・市内小、中学校、高校、大学 ・団体 ・市 ・教育委員会  
・地域国際化協会など

《研修会講師(予定)》  
・国立国語研究所日本語教育研究・情報センター 野山 広 氏、・愛知淑徳大学 松本一子氏  
・札幌在住の外国籍市民

《実施計画》  
H24年10月21日「多文化共生の担い手ワークショップ第1回」(講演、意見交換会)  
12月16日「多文化共生の担い手ワークショップ第2回」(講演、外国籍市民の体験談、意見交換会)  
H25年 2月13日、16日「日本語ボランティア意見交換会」

## 活動を振り返り、広く市民に周知する取組

### 取組5「シンポジウム開催」

H25年2月24日  
「多文化共生シンポジウム  
～日本語で創ろう 多文化共生都市・札幌の未来～」

《目的》  
日本語教育を中心に多文化共生の推進に取り組む団体が、それぞれの取組や課題を報告し、札幌地域の支援の全体像をつかむ。  
他地域の取組や外国人住民の意見発表を通じた新たな発見を、今後の活動につなげる。

また、取組の内容を広く市民に伝え、外国人住民への支援の現状について理解を促進し、一人ひとりの市民が担い手となる多文化共生コミュニティ形成を目指す。

・講師による講演  
・外国人住民が日本語を学んだ体験談(映像)  
・「多文化共生コミュニティ形成のための日本語教育事業」実施報告  
・地域の担い手によるパネルディスカッション  
・参加者による意見交換

協力 ・ 情報提供

## 国際プラザが主体となる取組

**取組2「子育て・教育」** 多文化の親子への日本語指導を含めた支援・居場所づくり

H24年7月～H25年3月「こどもサロン」毎月第4土曜日 期間中全9回  
7月1日、12月9日「母子保健セミナー」  
H25年 1月17日「外国人のための離乳食セミナー」

**取組3「防災」** 防災体験施設を見学・体験し、災害時に必要な日本語を実践的に学ぶ。

H24年6月30日 国際交流ボランティア講座「地域の中の外国人 災害時にどうなる？どうする？」  
8月31日 市民防災訓練参加  
11月23日「災害が起きたらどうする？外国人と一緒に学ぶサバイバル日本語」  
H25年2月2日「災害図上訓練(DIG)を通して多文化防災を考える」

**取組4「地域の日本文化・スポーツ体験」**

H24年7月16日「パイリング狂言」鑑賞 10月30日「籃染体験・交流会」  
11月23日「カーリング」体験 12月下旬「日本のお正月」体験  
H25年3月2日「ひなまつり」体験

## 平成25年度の取組

支援団体間の緩やかなネットワーク形成  
・研修会  
・成果報告会など

国際プラザの多文化共生事業

・地域の多文化共生を推進  
・各団体のコーディネート